<table>
<tr><td rowspan="2">授業科目名：<br><br>情報倫理</td><td rowspan="2">教員の免許状取得のための<br>必修科目</td><td rowspan="2">単位数：<br>２単位</td><td>担当教員名：<br>沖野　浩二</td></tr>
<tr><td>担当形態：<br>単独</td></tr>
<tr><td>科　目</td><td colspan="3">教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）</td></tr>
<tr><td>施行規則に定める<br>科目区分又は事項等</td><td colspan="3">教科に関する専門的事項<br>・情報社会・情報倫理</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業のテーマ及び到達目標<br>正しく情報を利活用することができ，情報化社会における適切な情報倫理観を養うことができる。将来，理工系技術者として必要とされる責任感をもつことができる。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の概要<br>身の回りに溢れている情報は，真偽がわからないものや出典が不明なものが沢山ある。思考を行うには，これらを排除し，適切に情報を取捨選択する必要がある。この授業ではこれらを行うために必要な能力の獲得を目指すとともに，これらの学習を通じて，情報倫理の育成および技術者倫理の一端を学ぶ。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業計画<br>第１回：　授業導入<br>第２回：　総合的思考法の理解/複眼思考<br>第３回：　論理的思考<br>第４回：　因果関係<br>第５回：　図解思考法１：構成要素、空間的配置、相互関係<br>第６回：　図解思考法２：系統図、関連図、フローチャート，ポジショニング<br>第７回：　発散型思考法：ブレーンストーミング<br>第８回：　収束型思考法：フレームワークシンキング<br>第９回：　倫理的な判断とは<br>第１０回：　サイバー犯罪の実態<br>第１１回：　倫理と技術　(技術者としての責任)<br>第１２回：　統計情報の扱い方<br>第１３回：　知的財産権<br>第１４回：　個人情報<br>第１５回：　道徳と倫理</td></tr>
<tr><td colspan="4">テキスト<br>大学生と新社会人のための知のワークブック　竹田茂生・藤木清/編　くろしお出版</td></tr>
<tr><td colspan="4">参考書・参考資料等<br>なし</td></tr>
</table>

| |
|---|
| 学生に対する評価 |
| 授業内課題（20%），レポート（80%） |

<table>
<tr><td>授業科目名：<br>プログラミングI</td><td>教員の免許状取得のための<br>必修科目</td><td>単位数：<br>2単位</td><td>担当教員名：<br>秋山　正和<br>担当形態：<br>単独</td></tr>
<tr><td colspan="2">科　目</td><td colspan="2">教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　数学，高等学校　情報）</td></tr>
<tr><td colspan="2">施行規則に定める<br>科目区分又は事項等</td><td colspan="2">教科に関する専門的事項<br>・コンピュータ<br>・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業のテーマ及び到達目標<br>情報処理の基本的な知識，コンピュータの構成の基礎，ならびにプログラミングの初歩を学び，コンピュータの動作の仕組みの概要を理解する。また，コンピュータを操作する際に必要となるソフトウェアについての基本的な知識を得る。これらと並行して，初歩的なプログラミングの技能を修得する。<br>・コンピュータがどのようにして計算を行うか，コンピュータの動作の仕組みを理解する。<br>・コマンドラインによる操作を習得し，プログラミングの流れを理解する。<br>・C/C++/Pythonの文法を覚え，実習を通してプログラムを作成できるようになる。<br>・実習を通して数値計算結果を可視化できるようになる。<br>・数式処理言語(Mathematica)を用いて，実習を通して複雑な計算ができるようになる。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の概要<br>コンピュータに関する基礎的な事項の学習や,C/C++/Python言語によるプログラミング入門を行う。またアルゴリズムやデータ構造といった抽象的な概念のみならず，CUIを用いたコンパイルなども実習形式で行う。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業計画<br>第１回：コンピュータの動作原理<br>第２回：GUI・CUIを用いたファイル・フォルダ操作およびファイルシステムの理解<br>第３回：Linux系CUIを用いたプログラミング準備およびコンパイルの概念について<br>第４回：C/C++/Pythonを用いたプログラミング(データの型について)<br>第５回：C/C++/Pythonを用いたプログラミング(数値の演算と型について)<br>第６回：C/C++/Pythonを用いたプログラミング(文字列型と文字列操作関数について)<br>第７回：C/C++/Pythonを用いたプログラミング(外部データの入出力関数について)<br>第８回：アルゴリズムとデータ構造，擬似コードについて<br>第９回：C/C++/Pythonを用いたプログラミング(論理演算子を用いたアルゴリズムの構成)<br>第１０回：C/C++/Pythonを用いたプログラミング(繰り返し文を用いたアルゴリズムの構成)<br>第１１回：C/C++/Pythonを用いたプログラミング(if，while，forを用いた複雑なアルゴリズム)</td></tr>
</table>

| |
|---|
| 第１２回：ベクトル，行列などのデータ格納方法の実践的プログラミング<br>第１３回：エラトステネスの篩，素数判定，モンテカルロシミュレーションのプログラミング<br>第１４回：データの可視化方法に関するプログラミング技法導入編<br>第１５回：データの可視化方法に関するプログラミング技法応用編<br>定期試験 |
| テキスト<br>指定しない |
| 参考書・参考資料等<br>［1］ 明快入門 C スーパービギナー編（林晴比古実用マスターシリーズ），林 晴比古，2013，出版社 ： SBクリエイティブ<br>［2］ Python 1年生 体験してわかる！会話でまなべる！プログラミングのしくみ，森 巧尚，2017，出版社 ： 翔泳社 |
| 学生に対する評価<br>定期試験８０％・小テスト２０％で評価する |

<table>
<tr><td>授業科目名：<br>プログラミングⅡ</td><td>教員の免許状取得のための<br>選択科目</td><td>単位数：<br>2単位</td><td>担当教員名：<br>秋山　正和<br><br>担当形態：<br>単独</td></tr>
<tr><td colspan="2">科　目</td><td colspan="2">教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　数学，高等学校　情報）</td></tr>
<tr><td colspan="2">施行規則に定める<br>科目区分又は事項等</td><td colspan="2">教科に関する専門的事項<br>・コンピュータ<br>・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業のテーマ及び到達目標<br>コンピュータ・情報処理の能力習得のため，プログラミング言語C/C++/Pythonの基本的な知識と技能を身につける。さらに常微分方程式や偏微分方程式やその離散化・数値計算に触れることにより，C/C++/Pythonの使用方法を学ぶとともに，数値計算・数値解析の初歩を体験する。<br>・数値解析の基礎を身につけ，実習を通してプログラミングができるようになる。<br>・数値計算の離散化スキームを学び，実習を通してプログラミングができるようになる。<br>・実習を通して，得られた数値計算結果の可視化プログラミングができるようになる。<br>・自然現象に現れる微分方程式を導出し，数値計算によってより深く理解することができようになる。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の概要<br>コンピュータに関する基礎的な事項の学習からはじめ，C/C++/Python言語によるプログラミング技法の習得，ルンゲ・クッタ法を用いた常微分方程式の数値計算方法の実践的プログラミングを行う。また，応用編として偏微分方程式の一種である反応拡散方程式の数値シミュレーションなども行う。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業計画<br>第１回：GUI・CUIを用いたファイル・フォルダ操作およびファイルシステムの理解<br>第２回：プログラミング言語C/C++/Pythonの復習<br>第３回：自然現象に現れる微分方程式（常微分方程式，偏微分方程式）について<br>第４回：C/C++/Pythonを用いた常微分方程式の数値解法(オイラー法，ホイン法)<br>第５回：C/C++/Pythonを用いた常微分方程式の数値解法(4段4次ルンゲ・クッタ法)<br>第６回：C/C++/Pythonを用いた常微分方程式の数値解法(厳密解と数値誤差について)<br>第７回：拡散方程式，波動方程式の導出，およびこれらの数値解析方法について<br>第８回：C/C++/Pythonを用いた拡散方程式の数値解法についての実践的プログラミング(入門編)<br>第９回：C/C++/Pythonを用いた拡散方程式の数値解法についての実践的プログラミング(応用編)<br>第１０回：C/C++/Pythonを用いた拡散方程式の可視化方法について<br>第１１回：C/C++/Pythonを用いた波動方程式の数値解法についての実践的プログラミング(入門編)</td></tr>
</table>

| |
|---|
| 第１２回：C/C++/Pythonを用いた波動方程式の数値解法についての実践的プログラミング(応用編)<br>第１３回：C/C++/Pythonを用いた波動方程式の可視化方法について<br>第１４回：魚類体表面のパターン形成モデルの導出とその数値シミュレーションと可視化について(入門編)<br>第１５回：魚類体表面のパターン形成モデルの導出とその数値シミュレーションと可視化について(応用編)<br>定期試験 |
| テキスト<br>指定しない |
| 参考書・参考資料等<br>[1]　大学数学の入門9 数値解析入門，齊藤 宣一，2012，出版社　：　東京大学出版会<br>[2]　数値計算（理工系の基礎数学 8），高橋　大輔，1996，出版社　：　岩波書店 |
| 学生に対する評価<br>定期試験５０％・小テスト５０％で評価する |

<table>
<tr><td rowspan="2">授業科目名：<br>数値解析学</td><td rowspan="2">教員の免許状取得のための<br>選択科目</td><td rowspan="2">単位数：<br>2単位</td><td>担当教員名：<br>上田 肇一</td></tr>
<tr><td>担当形態：<br>単独</td></tr>
<tr><td>科　目</td><td colspan="3">教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　数学，高等学校　情報）</td></tr>
<tr><td>施行規則に定める<br>科目区分又は事項等</td><td colspan="3">教科に関する専門的事項<br>・コンピュータ<br>・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業のテーマ及び到達目標<br>(1)連立非線形方程式の Newton 法のアルゴリズムが理解できる。<br>(2)Gauss の消去法， LU 分解，反復解法等のアルゴリズムが理解できる。<br>(3)数値積分の誤差評価の証明ができる。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の概要<br>自然あるいは社会科学における数学的問題には理論的に解ける問題と解けない問題（解けるかどうか不明な問題も含む）がある。理論的に解ける問題の中にも，具体的解法が不明な問題，解法は分かるが，膨大な計算時間がかかる問題などが数多くある。このような問題を解く有効な手段の一つとしてコンピュータを利用した数式処理や数値計算がある。この講義では，線形方程式，及び非線形方程式を中心にそれらの解を求める数値計算のアルゴリズムを解説する。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業計画<br>第１回：数値解析と誤差<br>第２回：非線形方程式の解法（反復法と不動点定理）<br>第３回：非線形方程式の解法（多変数の反復法）<br>第４回：線形方程式の数値解法（エルミート行列と実対称行列）<br>第５回：線形方程式の数値解法（ガウスの消去法）<br>第６回：線形方程式の数値解法（LU分解）<br>第７回：線形方程式の数値解法（QR分解）<br>第８回：線形方程式の数値解法（行列のノルム）<br>第９回：線形方程式の数値解法（反復法）<br>第１０回：補間多項式<br>第１１回：数値積分（台形公式，シンプソンの公式）<br>第１２回：数値積分の誤差<br>第１３回：関数近似（ノルム空間）<br>第１４回：関数近似（最良近似多項式）</td></tr>
</table>

| |
|---|
| 第１５回：関数近似（直交多項式）<br>定期試験 |
| テキスト<br>指定しない |
| 参考書・参考資料等<br>［1］齋藤宣一著　数値解析入門　東京大学出版　2012年 |
| 学生に対する評価<br>定期試験８０％・小テスト２０％で評価する |

| 授業科目名：<br>情報数理特論A | 教員の免許状取得のための<br>選択科目 | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：<br>秋山　正和<br>担当形態：<br>単独 |
|---|---|---|---|
| 科　目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　数学，高等学校　情報） | | |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項<br>・コンピュータ<br>・コンピュータ・情報処理（実習を含む。） | | |
| 授業のテーマ及び到達目標<br>昨今，音声・画像・動画などのマルチメディアデータから，意味のある情報を効率的に抜き出すためにいくつかの機械学習モデルが用いられている。本授業では，この機械学習に焦点を合わせ，コンピュータを用いたプログラミングにより実践的に機械学習モデルの一端に触れる。<br>・データ分析に必要となる数学的基礎概念（勾配法,ラグランジュの未定乗数法等）を学ぶ。<br>・いくつかの機械学習モデルの理論を理解し実習を通してプログラミングできるようになる。<br>・現実世界から取り出した大自由度データを機械学習モデルにより解析し，自身で作成したプログラミングを通して，次元圧縮等の効果を理解・体験する。 | | | |
| 授業の概要<br>本授業では，数式処理言語(Mathematica)をプログラミング言語として用い，この言語に慣れることから始める。続いて，勾配法・ラグランジュの未定乗数法の数学的基礎概念を理解し，実習を通してパーセプトロンや主成分分析法などの機械学習モデルの理解を深める。 | | | |
| 授業計画<br>第１回：機械学習モデルの歴史とその使用方法の変遷について<br>第２回：数式処理言語(Mathematica)の使用方法（入門編）<br>第３回：数式処理言語(Mathematica)の使用方法（応用編）<br>第４回：勾配法の数学的基礎の導入と1次元の勾配法の例について<br>第５回：1次元の勾配法の実践的プログラミングとその可視化<br>第６回：2次元の勾配法の実践的プログラミングとその可視化<br>第７回：単層パーセプトロンの理論と使用例の紹介<br>第８回：パーセプトロンを用いた点群の分類問題とは？（回帰直線の導出のアルゴリズム紹介）<br>第９回：パーセプトロンを用いた2次元の点群の分類問題の実践的プログラミングとその可視化<br>第１０回：パーセプトロンを用いた3次元の点群の分類問題の実践的プログラミングとその可視化<br>第１１回：ラグランジュの未定乗数法の数学的基礎の導入<br>第１２回：主成分分析法の理論と使用例の紹介<br>第１３回：主成分分析を用いた実践的プログラミング１（分散共分散行列の導出まで） | | | |

| |
|---|
| 第１４回：主成分分析を用いた実践的プログラミング２（分散共分散行列の固有値問題解法について）<br>第１５回：実際の例を用いた主成分分析よる次元圧縮とその可視化<br>定期試験 |
| テキスト<br>指定しない |
| 参考書・参考資料等<br>[1] 深層学習（機械学習プロフェッショナルシリーズ），岡谷 貴之，2015，出版社 ： 講談社<br>[2] Pythonによる統計分析入門,山内 長承,2018, 出版社 ： オーム社 |
| 学生に対する評価<br>定期試験６０％・小テスト４０％で評価する |

<table>
<tr><td rowspan="2">授業科目名：<br>情報数理特論B</td><td rowspan="2">教員の免許状取得のための<br>選択科目</td><td rowspan="2">単位数：<br>2単位</td><td>担当教員名：<br>上田 肇一</td></tr>
<tr><td>担当形態：<br>単独</td></tr>
</table>

| | |
|---|---|
| 科　目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　数学，高等学校　情報） |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項<br>・コンピュータ<br>・コンピュータ・情報処理（実習を含む。） |

授業のテーマ及び到達目標

自然現象のシミュレーションを行う際に必要となるモデル化及びアルゴリズムに関する手法を習得する。数学解析やプログラミングを通して，方程式に応じた適切なアルゴリズム選択の重要性を理解することを目標とする。

授業の概要

常微分方程式及び偏微分方程式の導出方法及び数値解を求めるアルゴリズムについて学修する。

授業計画

第１回：常微分方程式の解と離散近似
第２回：オイラー法
第３回：オイラー法を用いた数値計算
第４回：ルンゲ・クッタ法
第５回：ルンゲ・クッタ法を用いた数値計算
第６回：数値解法の安定性
第７回：高階常微分方程式
第８回：連立微分方程式を用いた数値計算
第９回：非自励系の常微分方程式
第１０回：偏微分と偏微分方程式
第１１回：ポアソン方程式に対する差分法
第１２回：ポアソン方程式の数値計算
第１３回：熱方程式に対する差分法（陽的解法・陰的解法）
第１４回：熱方程式の数値計算（陽的解法）
第１５回：熱方程式の数値計算（陰的解法）
定期試験

テキスト

指定しない

| |
|---|
| 参考書・参考資料等<br>[1] 柳田英二／中木達幸／三村昌泰　「理工系の数理　数値計算」裳華房，2014. |
| 学生に対する評価<br>定期試験８０％・小テスト２０％で評価する |

| 授業科目名：情報代数学 | 教員の免許状取得のための<br>選択科目 | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：<br>木村 巌<br>担当形態：<br>単独 |
|---|---|---|---|
| 科　目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報） | | |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項<br>・コンピュータ・情報処理（実習を含む。） | | |

授業のテーマ及び到達目標

情報の表現，効率のよい記録，計算，安全な通信の原理，基盤となるような代数学の諸概念を習得する．同時に，広く用いられる情報セキュリティの数学的基礎を学び，プログラミングを通して理解することを目標とする．

授業の概要

有限体上の線形代数学により符号理論の初歩を，有限環の単数群によりRSA暗号などの公開鍵暗号の基礎を学ぶ．さらに，それらを実際にプログラムとして実装し，計算効率の感覚を身につける．

授業計画

第１回：初等数論，とくに整数環とその剰余環
第２回：有限体上の線形空間
第３回：有限体上の線形写像と表現行列
第４回：符号理論の基礎
第５回：線形符号の基礎
第６回：線形符号の例
第７回：線形符号の限界式
第８回：コンピュータ演習（線形符号）
第９回：整数環の剰余環の単数群
第１０回：暗号理論の基礎
第１１回：共通鍵暗号
第１２回：公開鍵暗号（Elgamal暗号，RSA暗号）
第１３回：公開鍵暗号（楕円曲線暗号）
第１４回：コンピュータ演習（公開鍵暗号）
第１５回：線形符号，公開鍵暗号の実用例と標準化について
定期試験

テキスト

指定しない

| |
|---|
| 参考書・参考資料等<br>［1］和田山正「誤り訂正技術の基礎」森北出版，2010.<br>［2］森山大輔，西巻陵，岡本龍明「公開鍵暗号の数理」共立出版，2011. |
| 学生に対する評価<br>定期試験８０％・小テスト２０％で評価する |

| 授業科目名：<br>関数解析学 | 教員の免許状取得のための<br>選択科目 | 単位数：<br>２単位 | 担当教員名：<br>出口　英生<br>担当形態：<br>単独 |
|---|---|---|---|
| 科　目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報） | | |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項<br>・コンピュータ・情報処理（実習を含む。） | | |

授業のテーマ及び到達目標

機械学習の背景にある関数解析学を学び，カーネル法の基礎を理解することを目標とする。

授業の概要

線形代数の復習をした後，ヒルベルト空間の理論について解説する。さらに，機械学習において用いられるカーネル法の基礎理論と応用についても解説する。

授業計画

第１回：内積
第２回：正規直交基底
第３回：直交射影
第４回：対称行列
第５回：半正定値行列
第６回：正定値行列
第７回：ヒルベルトのl2空間
第８回：抽象ヒルベルト空間
第９回：射影定理
第１０回：リースの表現定理
第１１回：カーネル関数
第１２回：回帰問題
第１３回：分類問題
第１４回：カーネル関数の演算
第１５回：応用例
定期試験

テキスト

指定しない

参考書・参考資料等

[1] 瀬戸道生，伊吹竜也，畑中健志「機械学習のための関数解析入門」内田老鶴圃，2021.

学生に対する評価

定期試験８０％・小テスト２０％で評価する

<table>
<tr><td>授業科目名：情報理論</td><td>教員の免許状取得のための<br>選択科目</td><td>単位数：<br>２単位</td><td>担当教員名：<br>玉木　潔<br>担当形態：<br>単独</td></tr>
<tr><td colspan="2">科　目</td><td colspan="2">教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）</td></tr>
<tr><td colspan="2">施行規則に定める<br>科目区分又は事項等</td><td colspan="2">教科に関する専門的事項<br>・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業のテーマ及び到達目標<br>確率、シャノンエントロピー、情報源圧縮、ハフマン符号などの様々な符号化などの基本的な量の意味や符号化の基礎を理解する。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の概要<br>計算機科学、情報科学、情報工学の土台である情報理論の基礎的な理解を深め、将来の研究や開発に応用する準備を整える。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業計画<br>第１回：イントロダクション<br>第２回：確率論の基礎（集合論の基礎）<br>第３回：確率論の基礎（σ集合体）<br>第４回：確率論の基礎（確率の定義）<br>第５回：確率論の基礎（確率の応用）<br>第６回：情報圧縮と典型系列（順列・組み合わせの復習）<br>第７回：情報圧縮と典型系列（基礎的な符号化）<br>第８回：情報圧縮と典型系列（典型系列の導入）<br>第９回：情報圧縮と典型系列（シャノンエントロピーの導入）<br>第１０回：情報圧縮と典型系列（シャノンエントロピーの応用）<br>第１１回：情報源符号化（符号クラスの紹介）<br>第１２回：情報源符号化（符号木の導入）<br>第１３回：通信路符号化（ハフマン符号）<br>第１４回：通信路符号化（通信路のモデル）<br>第１５回：通信路符号化（エラー訂正の基本的な考え方）<br>定期試験</td></tr>
<tr><td colspan="4">テキスト<br>講義ノートを配布する</td></tr>
<tr><td colspan="4">参考書・参考資料等<br>1. Element of Information Theory, T. M. Cover and J. A. Thomas, Wiley Series in Tele</td></tr>
</table>

| |
|---|
| communications<br>2. 『情報理論のエッセンス』平田 廣則 著（オーム社） |
| 学生に対する評価<br>定期試験の成績によって行う |

<table>
<tr><td rowspan="2">授業科目名：<br>情報数理概論A</td><td rowspan="2">教員の免許状取得のための<br>必修科目</td><td rowspan="2">単位数：<br>2単位</td><td>担当教員名：<br>上田 肇一</td></tr>
<tr><td>担当形態：<br>単独</td></tr>
<tr><td colspan="2">科　目</td><td colspan="2">教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）</td></tr>
<tr><td colspan="2">施行規則に定める<br>科目区分又は事項等</td><td colspan="2">教科に関する専門的事項<br>・情報システム（実習を含む。）</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業のテーマ及び到達目<br>・情報システムの具体例を学び，情報システムにおけるデータ入力，データ処理，データ出力の各過程において用いられる技術の概要を理解する。<br>・時間連続的に変化するシステムの制御に関する課題を理解し，データ通信の時間遅れが制御に与える影響について理解する。<br>・情報システムで用いられるデータ処理の基礎を理解し，自ら制御図を作成することができるようになる。<br>・ビッグデータ解析の際に必要となる，データベースからのデータ読み込み・書き込み方法について学び，自らプログラミングを通してデータ処理を実行できるようになる。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の概要<br>情報システムにおけるデータ入力，データ処理，データ出力，情報セキュリティーに関する内容，及びシステム制御の具体例を紹介する。さらに，ビッグデータ処理において有用な統計手法，可視化手法，及びオープンデータを活用した課題解決に関する内容を扱う。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業計画<br>第 1 回:情報システムとは：データ入力，データ処理，データ出力<br>第 2 回:情報システムの具体例：システム制御，自動制御，自律分散システム<br>第 3 回:情報システムの情報セキュリティー<br>第 4 回:情報システムの表し方（図表化）<br>第 5 回:システムの運動制御<br>第 6 回:データ構造とアルゴリズム<br>第 7 回:情報システムのプログラミング<br>第 8 回:データベース：Python を用いたデータ入出力<br>第 9 回:データ統計処理：平均，分散，分散共分散行列，相関<br>第 10 回:データ統計処理：統計的有意差検定<br>第 11 回:ビッグデータ解析で用いられる数理理論<br>第 12 回:機械学習<br>第 13 回:深層学習によるパターン認識</td></tr>
</table>

| |
|---|
| 第 14 回:オープンデータの概要：ファイルフォーマット，オープンデータの公開レベル<br>第 15 回:オープンデータを活用したデータ解析：Python を用いたデータ入力，可視化<br>定期試験 |
| テキスト<br>指定しない |
| 参考書・参考資料等<br>［1］コンピュータ概論 ：情報システム入門 第8版，2020年，共立出版 |
| 学生に対する評価<br>定期試験８０％・小テスト２０％で評価する |

<table>
<tr><td>授業科目名：組込みシステム</td><td>教員の免許状取得のための<br>選択科目</td><td>単位数：<br>２単位</td><td>担当教員名：<br>片桐崇史</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>担当形態：<br>単独</td></tr>
<tr><td>科　目</td><td colspan="3">教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）</td></tr>
<tr><td>施行規則に定める<br>科目区分又は事項等</td><td colspan="3">教科に関する専門的事項<br>・情報システム（実習を含む。）</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業のテーマ及び到達目標<br>組込みシステムに関連するハードウェアから基本ソフト（OS）、さらにソフトウェアの開発法に至る基礎技術を理解する。また、組込みシステムの開発事例などを紹介し、この分野の専門知識と応用分野に関して幅広い知識を身につける。<br>以下の専門的知識を獲得することを目標とする。<br>・組込みシステムの概念を説明できる。<br>・組込みシステムのハードウェアの特徴を説明できる。<br>・組込みシステムのソフトウェアの特徴を説明できる。<br>・組込みシステムの開発プロセスを説明できる。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の概要<br>組込みシステムのハードウェアとソフトウェアについて講義形式で説明する。さらに組込みシステムの開発事例を用いた演習を行う。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業計画<br>第１回 概要説明<br>第２回 ハードウェア（カウンタ・タイマについて）<br>第３回 ハードウェア（LSI・メモリについて）<br>第４回 CPUアーキテクチャ<br>第５回 メモリアーキテクチャ<br>第６回 割込み制御<br>第７回 インタフェース<br>第８回 入出力装置<br>第９回 リアルタイムOS（タスクのスケジューリングについて）<br>第１０回 リアルタイムOS（同期制御について）<br>第１１回 ソフトウェア開発<br>第１２回 開発事例（LEDを用いたイルミネーションシステムについて）<br>第１３回 開発事例（道路などの冠水を防ぐシステムについて）<br>第１４回 開発事例（カーオーディオシステムについて）<br>第１５回 まとめ</td></tr>
</table>

| |
|---|
| 定期試験 |
| テキスト<br>講義中に配布する |
| 参考書・参考資料等<br>牧隆史，松原敬二，”エンベデッドシステムスペシャリスト 対応試験ES 2021～2022年版”<br>情報処理教科書，翔泳社，2020年，3,880円＋税<br>※購入は任意 |
| 学生に対する評価<br>小テスト（50%）、定期試験（50%） |

<table>
<tr><td rowspan="2">授業科目名：<br>ネットワーク数理</td><td rowspan="2">教員の免許状取得のための<br>必修科目</td><td rowspan="2">単位数：<br>2単位</td><td>担当教員名：<br>上田　肇一</td></tr>
<tr><td>担当形態：<br>単独</td></tr>
<tr><td>科　目</td><td colspan="3">教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）</td></tr>
<tr><td>施行規則に定める<br>科目区分又は事項等</td><td colspan="3">教科に関する専門的事項<br>・情報通信ネットワーク（実習を含む。）</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業のテーマ及び到達目標<br>情報ネットワークの仕組みや構成要素，プロトコルの役割や情報セキュリティを確保するための方法や技術を理解する。また，データを蓄積，管理，分析する方法を理解し，そのための技法を修得する。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の概要<br>情報ネットワークの階層構造を理解し，必要に応じて適切な構成要素を選んで小規模なネットワークを構成する仕方を学ぶ。情報を誤りなく転送するための符号化，第三者から情報を保護する暗号化の数理的な基礎を学ぶ。さらに，情報を利活用するためのネットワークと関係したデータベース・データ処理の技法を修得する。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業計画<br>第１回：情報ネットワークの概要（物理層からアプリケーション層までの階層構造）<br>第２回：情報ネットワークの代表的な例（Ethernet, WiFi, 5Gネットワークなど）<br>第３回：情報ネットワークの代表的なプロトコル（TCP/IP, SMTP, POP, IMAP, HTTPなど）<br>第４回：ネットワークと最適化問題<br>第５回：ネットワークにおける経路探索<br>第６回：実習・仮想マシンを用いた情報ネットワークの構築<br>第７回：情報ネットワークで用いられる符号化の概要<br>第８回：符号の代表的な例（BCH符号，Reed-Solomon符号など）<br>第９回：線形代数と符号理論<br>第10回：情報セキュリティの概要（暗号を用いた情報保護の例）<br>第11回：共通鍵暗号と公開鍵暗号の概要<br>第12回：公開鍵暗号（Elgamal暗号，RSA暗号）<br>第13回：ネットワークとデータベース（関係データベースとSQL, キーバリューストレージ、分散データベース）<br>第14回：データの様々な形式と適切なデータ処理<br>第15回：実習・計算機を用いたデータ処理（表計算ソフトと統計ソフト）<br>定期試験</td></tr>
</table>

| |
|---|
| テキスト<br>指定しない |
| 参考書・参考資料等<br>［1］　もみじあめ「Linuxで動かしながら学ぶTCP/IPネットワーク入門」NextPublishing Authors Press，2021.<br>［2］　和田山正「誤り訂正技術の基礎」森北出版，2010.<br>［3］　森山大輔，西巻陵，岡本龍明「公開鍵暗号の数理」共立出版，2011. |
| 学生に対する評価<br>定期試験６０％・実習レポート４０％で評価する |

<table>
<tr><td>授業科目名：<br>幾何学特論A</td><td>教員の免許状取得のための<br>選択科目</td><td>単位数：<br>2単位</td><td>担当教員名：<br>永井　節夫</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>担当形態：<br>単独</td></tr>
<tr><td>科　目</td><td colspan="3">教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）</td></tr>
<tr><td>施行規則に定める<br>科目区分又は事項等</td><td colspan="3">教科に関する専門的事項<br>・情報通信ネットワーク（実習を含む。）</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業のテーマ及び到達目標<br>グラフ理論の基礎を学ぶ。またその応用として、様々な離散的な問題を解く手順を身につけることを目標とする。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の概要<br>グラフ理論の基礎概念を学び、その応用として、グラフの視覚化、彩色問題、ネットワーク解析について触れる。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業計画<br>第１回：グラフとは何か<br>第２回：定義と例<br>第３回：道と閉路<br>第４回：オイラーグラフ<br>第５回：ハミルトングラフ<br>第６回：木<br>第７回：平面グラフとオイラーの公式<br>第８回：双対グラフ<br>第９回：正則グラフ<br>第１０回：グラフの彩色<br>第１１回：地図の彩色<br>第１２回：辺彩色<br>第１３回：オイラー有向グラフとトーナメント<br>第１４回：Hallの「結婚」定理<br>第１５回：ネットワークフロー<br>定期試験</td></tr>
<tr><td colspan="4">テキスト<br>指定しない</td></tr>
<tr><td colspan="4">参考書・参考資料等<br>[1] R. J. ウイルソン著「グラフ理論入門」近代科学社.</td></tr>
</table>

| |
|---|
| [2] P.グリッツマン／R.ブランデンベルク「最短経路の本」丸善出版，2012.<br>[3] R.ディーステル「グラフ理論」丸善出版，2012. |
| 学生に対する評価<br>定期試験８０％・小テスト２０％で評価する |

| 授業科目名：<br>都市・交通情報通信 | 教員の免許状取得のための<br>選択科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：<br>堀田 裕弘<br>担当形態：<br>単独 |
|---|---|---|---|
| 科　目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報） | | |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項<br>・情報通信ネットワーク（実習を含む。） | | |

授業のテーマ及び到達目標

・アナログとデジタル、情報のデジタル化について理解することができる。（理解力、必要な情報の収集）
・デジタル変調方式などの情報通信の基礎知識や有線・無線ネットワークといった情報通信ネットワークについて理解することができる。（理解力、必要な情報の収集）
・画像・映像・３次元映像・音声、マルチメディアなどのメディア情報の基礎について理解することができる。（理解力、必要な情報の収集）
・スマート建設システム・ドローンによるインフラ維持管理などのスマートインフラを支える情報通信技術について理解することができる。（理解力、必要な情報の収集）

授業の概要

超スマート社会を支える情報通信システムについて、アナログとデジタル、デジタル情報（標本化と量子化）、デジタル変調方式などの情報通信の基礎知識、有線・無線ネットワークといった情報通信ネットワーク、画像・映像・３次元映像・音声、マルチメディアなどのメディア情報の基礎、スマート建設システム・ドローンによるインフラ維持管理などのスマートインフラを支える情報通信技術を学ぶ。さらに、GIS・ダイナミックマップ・ロケーション情報配信・サイネージ・車車間通信・自動運転などスマートモビリティやスマートインフラで実用化される情報通信技術の基礎とその実応用について学ぶ。また、ICT企業における企画・研究開発の実務経験を生かして、授業内容と現代社会との関りについても解説する。

授業計画

第１回：情報のデジタル化（標本化、量子化）
第２回：情報のデジタル化（情報量）
第３回：メディア情報（画像、映像、音声）
第４回：メディア情報（情報圧縮技術）
第５回：情報通信（アナログ通信方式、デジタル通信方式）
第６回：スマートインフラを支える情報通信技術（SfM、ドローン測量）
第７回：スマートモビリティを支える情報通信技術（自動運転、Dynamic Map）
第８回：スマートシティを支える情報通信技術（LPWA、5G）
定期試験

テキスト

授業で関連資料等をWEB配布する。

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

レポート課題（３０％）、最終レポート内容（２０％）、定期試験（５０％）を総合して評価する。

| 授業科目名：<br>土木情報学 | 教員の免許状取得のための<br>選択科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：<br>堀田 裕弘<br>担当形態：<br>単独 |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 科　目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報） |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項<br>・情報通信ネットワーク（実習を含む。） |

授業のテーマ及び到達目標

・IoTの基盤となるセンサについて理解することができる。（理解力、必要な情報の収集）
・３次元空間情報の取得方法や画像の基本的な処理方法について理解することができる。（理解力、必要な情報の収集）
・待ち行列理論など数理計画について理解することができる。（理解力、必要な情報の収集）
・ソフトコンピューティングやデータベースなどデータ連携基盤について理解することができる。（理解力、必要な情報の収集）

授業の概要

超スマート社会を支える社会インフラに関係する情報システムについて、その基盤技術となる情報センシング、３次元空間計測、画像による空間情報処理などを学ぶ。さらに、人流や交通流を議論するために重要な待ち行列理論や、ファジー理論、遺伝的アルゴリズム、ニューラルネットワークなどソフトコンピューティングの技術、データ連携基盤の基礎となるデータベースやモデリングなどスマートシティー構想で実用化される情報通信技術の基礎とその実応用について学ぶ。また、ICT企業における企画・研究開発の実務経験を生かして、授業内容と現代社会との関りについても解説する。

授業計画

第１回：センサ
第２回：３次元計測
第３回：図形と空間情報処理
第４回：画像処理
第５回：待ち行列理論
第６回：ソフトコンピューティング
第７回：モデリングとデータベース
第８回：情報システムと情報セキュリティ
定期試験

テキスト

土木情報学基礎編，土木学会土木情報学委員会教育企画小委員会（編集），土木学会，ISBN978-4-8106-0937-0，1700円

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

レポート課題（３０％）、最終レポート（２０％）、定期試験（５０％）を総合して評価する。

<table>
<tr><td>授業科目名：<br>情報数理概論B</td><td>教員の免許状取得のための<br>必修科目</td><td>単位数：<br>2単位</td><td>担当教員名：<br>秋山　正和</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>担当形態：<br>単独</td></tr>
<tr><td>科　目</td><td colspan="3">教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）</td></tr>
<tr><td>施行規則に定める<br>科目区分又は事項等</td><td colspan="3">教科に関する専門的事項<br>・マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業のテーマ及び到達目標<br>音声・画像・動画などのマルチメディアデータは，昨今，機械学習のインプットデータとして用いることで，多様かつ有益な情報がアウトプットできるとして注目されている。この背景として，そもそものマルチメディアデータが適切にデジタル化・圧縮化されていることが肝要である。本講義では，データのマルチメディアを活用する上で必要となる，データ処理，コンテンツ作成及びデータ加工に関する知識を習得し，実習を通してマルチメディアを用いた情報表現について理解を深める。<br>・静止画像・動画による情報表現方法を学ぶ。<br>・音声データの特徴を理解し，データ分析できるようになる。<br>・動画作成方法を理解し，Webにおいて公開できるようになる。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の概要<br>静止画像，動画，音声データのファイル形式の特徴を理解し，データの加工方法を学ぶ。また，マルチメディアの活用による情報表現を学び，効果的な情報発信方法を実習を交えながら学習する。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業計画<br>第１回：自然現象・社会現象のモデル化とシミュレーションによる視覚化<br>第２回：画像データのファイル形式とその特徴<br>第３回：立体図形による情報表現<br>第４回：動画のデジタル化方法とファイルサイズ<br>第５回：画像処理・フィルタリング<br>第６回：画像の変換と合成<br>第７回：データサイエンスとデータの表現<br>第８回：音声データのデータ形式<br>第９回：音声データ分析の加工<br>第１０回：音声データの解析手法<br>第１１回：動画による表現・動画の処理<br>第１２回：アプリケーションソフトウェアを用いた動画作成（動画データと音声データの合成）</td></tr>
</table>

| |
|---|
| 第１３回：３次元動画による情報表現<br>第１４回：動画データの統計分析入門<br>第１５回：Webサイトでの情報発信<br>定期試験 |
| テキスト<br>指定しない |
| 参考書・参考資料等<br>[1] 増補改訂版 図解でわかる はじめてのデジタル画像処理, 2018, 出版社:技術評論社<br>[2] Mathematicaによる 画像処理入門,1998, 出版社:朝倉書店 |
| 学生に対する評価<br>定期試験６０％・小テスト４０％で評価する |

<table>
<tr><td rowspan="2">授業科目名：<br>幾何学特論B</td><td rowspan="2">教員の免許状取得のための<br>選択科目</td><td rowspan="2">単位数：<br>2単位</td><td>担当教員名：<br>永井　節夫</td></tr>
<tr><td>担当形態：<br>単独</td></tr>
<tr><td colspan="2">科　目</td><td colspan="2">教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）</td></tr>
<tr><td colspan="2">施行規則に定める<br>科目区分又は事項等</td><td colspan="2">教科に関する専門的事項<br>・マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業のテーマ及び到達目標<br>グラフィックスの数理的基礎を学ぶ。情報デザインのラスタグラフィックスとベクトルグラフィックスの違いを把握し、コンテンツ作成のための平面図形および空間図形を数式で表し、描画できることを目標とする。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の概要<br>平面図形と空間図形の解析幾何学の基礎を学ぶ。直線と二次曲線などの数式を具体的に取り扱い、回転と平行移動・斜交変換や3次元から2次元への射影による図形の変換について解説する。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業計画<br>第１回：グラフィックスとコンピュータ・グラフィックス（ペイント系，ドロー系）<br>第２回：平面上の直線（点と直線、直線と直線）<br>第３回：平面上の円（直線と円、円と円）<br>第４回：平面上の二次曲線（二次曲線の性質）<br>第５回：平面上の二次曲線（二次曲線の分類）<br>第６回：平面図形の描画（実習）<br>第７回：空間における点と座標変換<br>第８回：空間における直線と平面<br>第９回：空間図形（点と直線、直線と平面、平面と平面）<br>第１０回：二次曲面と性質<br>第１１回：空間図形の描画（実習）<br>第１２回：平面・空間の合同変換<br>第１３回：平面・空間の斜交変換<br>第１４回：空間から平面への射影変換<br>第１５回：射影した図形の描画（実習）<br>定期試験</td></tr>
<tr><td colspan="4">テキスト<br>指定しない</td></tr>
</table>

| |
|---|
| 参考書・参考資料等<br>[1] 矢野健太郎「解析幾何学」朝倉書店，2004.<br>[2] 熊原啓作「行列・群・等質空間」日本評論社，2001. |
| 学生に対する評価<br>定期試験８０％・小テスト２０％で評価する |

<table>
<tr><td rowspan="2">授業科目名：デジタルコンテンツ</td><td rowspan="2">教員の免許状取得のための選択科目</td><td rowspan="2">単位数：<br>２単位</td><td>担当教員名：<br>辻合秀一</td></tr>
<tr><td>担当形態：<br>単独</td></tr>
<tr><td>科　目</td><td colspan="3">教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）</td></tr>
<tr><td>施行規則に定める<br>科目区分又は事項等</td><td colspan="3">教科に関する専門的事項<br>・マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業のテーマ及び到達目標<br>デジタルコンテンツを理解する上で必要な数学知識からデジタルコンテンツ等を理解する。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の概要<br>　画像、音、映像などさまざまなものが、デジタル化されている。デジタルコンテンツでは、デジタルとは何か、アナログとデジタルの比較からデジタル圧縮、デジタル通信などの解説を行う。そして、実際にサンプリングに使用するハードウェアやデジタルフォーマットの説明や紹介を行う。電子透かし、ステガノグラフィというデジタルを利用した情報隠蔽の原理や応用の説明も行う。また、デジタルテクノロジーの最新情報提供や将来の課題も考える。<br>　アニメーションやシミュレーションなどがコンピュータ上で行われデジタルコンテンツとして大きな産業に成長しつつある。ここでは、アニメーションなどをデジタルコンテンツとして、どのように作られているかを説明する。富山における産業などについても取り上げる。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業計画<br>第１回：離散数学<br>第２回：アナログとデジタルの比較<br>第３回：デジタル機器<br>第４回：デジタル音声処理<br>第５回：デジタルシネマ<br>第６回：データ圧縮理論<br>第７回：データベース<br>第８回：電子透かし<br>第９回：デジタル家電<br>第１０回：デジタルコンテンツ<br>第１１回：デジタルコンテンツ工学<br>第１２回：映像コンテンツ<br>第１３回：映像コンテンツの作り方<br>第１４回：アニメーション、シミュレーション<br>第１５回：　デジタルコンテンツの最新情報<br>定期試験</td></tr>
</table>

| |
|---|
| テキスト<br>適宜配布 |
| 参考書・参考資料等<br>参考書：田中琢真：情報化学概論、学術図書出版社、2019<br>参考書：Karen Wilkinson、Mike Petrich：ティンカリングをはじめよう、オライリージャパン<br>参考書：林 和孝：Raspberry Piで遊ぼう！ 改訂第4版 ～ モデルB+完全対応、ラトルズ<br>参考書：マルチメディアと情報化社会、第二版、CG-ARTS協会、2010<br>参考書：金子満：映像コンテンツの作り方、ボーンデジタル、2007 |
| 学生に対する評価<br>定期試験(50%)とレポート等(50%)から評価する。 |

<table>
<tr><td rowspan="2">授業科目名：<br>情報と職業</td><td rowspan="2">教員の免許状取得のための<br>必修科目</td><td rowspan="2">単位数：<br>2単位</td><td>担当教員名：<br>竹村　哲</td></tr>
<tr><td>担当形態：<br>単独</td></tr>
<tr><td>科　目</td><td colspan="3">教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）</td></tr>
<tr><td>施行規則に定める<br>科目区分又は事項等</td><td colspan="3">教科に関する専門的事項<br>・情報と職業</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業のテーマ及び到達目標<br>情報とは、認識を成立させる糧である。そして、情報活動とは、想いを価値づけして新しい概念（システム）に創造するという知的生産活動である。これに関して、従来ハードな情報すなわちデジタルデータを扱うシステムデザインやプログラミングなどが主流であったが、近年ではソフトな情報であるイベントを扱った問題解決へとその捉えが拡大してきている。本講では、現代的な情報活動の職域について概観するとともに、専門職としてシステムインテグレータとシステムツールを利活用するイベントクリエータを取り上げて、その特質に関して情報演習を通して理解を深める。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の概要<br>情報の本質を学びの概念を切り口にして捉え直す。そして、情報活動（知的生産活動）に携わる現代的な職域を理解する。さらに、システムインテグレータ、イベントクリエータに関する理解を促進するために、これらに相当する教職活動を取り上げてコンピュータを活用した演習を行う。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業計画<br>第１回：オリエンテーション<br>第２回：情報とは何か<br>第３回：情報活動とは何か<br>第４回：広義の情報プロフェッション<br>第５回：システムインテグレータとは何か<br>第６回：　システムデザインの方法<br>第７回：　（演習）校務管理を効率化するデータベース・システムの開発<br>第８回：　プログラミングの方法<br>第９回：　（演習）数学教育における数理演算プログラミング<br>第10回：イベントクリエータとは何か<br>第11回：　システムツールを活用した問題解決の方法<br>第12回：　　ISM法とKJ法の理論<br>第13回：　　（演習）企画立案イベント<br>第14回：　　AHP法の理論</td></tr>
</table>

| |
|---|
| 第15回：　　（演習）プロジェクト型学習イベント |
| テキスト<br>竹村哲（著）『教職情報リテラシー:ACCESSを用いた問題解決法入門』（海文堂出版、2015）1,000円（税別）<br>竹村哲（著）『学びと教師』（富山大学出版会、2021）1,500円（税別） |
| 参考書・参考資料等<br>豊田雄彦（著）『情報と職業 AI時代に向けてのキャリア開発』（電気書院、2018）2,000円（税別）<br>竹村哲（著）『問題解決の技法』（海文堂出版、2006）1,900円（税別） |
| 学生に対する評価<br>課題レポート（60点）と演習成果（40点）の合計をもって評価する。 |

<table>
<tr><td rowspan="2">授業科目名：情報科教育法Ⅰ</td><td rowspan="2">教員の免許状取得のための<br>必修科目</td><td rowspan="2">単位数：<br>２単位</td><td>担当教員名：<br>成瀬喜則</td></tr>
<tr><td>担当形態：<br>単独</td></tr>
<tr><td>科　目</td><td colspan="3">教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）</td></tr>
<tr><td>施行規則に定める<br>科目区分又は事項等</td><td colspan="3">各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業のテーマ及び到達目標<br>高等学校　教科「情報」の教育目標、年間指導計画を策定することができる。<br>情報技術と情報活用能力との関係を理解し、授業の設計・改善や評価をすることができる。<br>グループによる演習を積極的に取り入れ、生徒が主体的に学ぶように授業改善をすることができる。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の概要<br>高等学校　教科「情報」で必要な基本的な情報技術や情報倫理について情報活用能力の概念と結びつけながら理解を深める。さらに、情報技術を活用した課題解決法やカリキュラムの在り方などについて考える。演習を通して教材開発、学習評価についても説明する。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業計画<br>第１回：オリエンテーション　　情報科の構成と目標<br>第２回：情報社会を生きる資質・能力について<br>第３回：個別最適な学びと情報技術の活用<br>第４回：学習指導要領における情報科の設置と変遷<br>第５回：共通教科情報科「情報Ⅰ」で何をどう教えるか<br>第６回：共通教科情報科「情報Ⅱ」で何をどう教えるか<br>第７回：専門教科情報科で何をどう教えるか<br>第８回：情報実習をどのように実施するか<br>第９回：課題解決学習の指導法と情報活用能力の育成<br>第１０回：課題解決学習と学習評価<br>第１１回：協働的な学びとツールを使った情報整理・分析<br>第１２回：授業におけるコミュニケーションとグループ学習<br>第１３回：総合的な探究の時間や教科横断的な学習<br>第１４回：資質・能力の三つの柱に沿った情報活用能力<br>第１５回：カリキュラム（年間計画、単元案）の作り方<br>定期試験</td></tr>
<tr><td colspan="4">テキスト<br>文部科学省　高等学校学習指導要領（最新版）</td></tr>
</table>

| |
|---|
| 文部科学省　高等学校学習指導要領（最新版）解説　情報編<br>鹿野利春他著　情報科教育法（2022）実教出版（2400円＋税）ISBN:978-4407355215 |
| 参考書・参考資料等<br>文科省（2021）高等学校情報科「情報Ⅰ」教員研修用教材（本編）<br>文科省（2021）高等学校情報科「情報Ⅱ」教員研修用教材（本編）<br>　＊ https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416746.htmに掲載 |
| 学生に対する評価<br>課題・レポート（30％）、定期試験（70％）の成績等を総合的に評価する。 |

<table>
<tr><td>授業科目名：情報科教育法Ⅱ</td><td>教員の免許状取得のための必修科目</td><td>単位数：<br>２単位</td><td>担当教員名：<br>成瀬喜則<br>担当形態：<br>単独</td></tr>
<tr><td colspan="2">科　目</td><td colspan="2">教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）</td></tr>
<tr><td colspan="2">施行規則に定める<br>科目区分又は事項等</td><td colspan="2">各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業のテーマ及び到達目標<br>モデル化やシミュレーションを取り入れた課題解決型の授業をデザインすることができる。<br>プログラミングによる課題解決や、授業コンテンツを開発することができる。<br>情報セキュリティについて理解して、生徒に必要性を考えさせることができる。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の概要<br>高等学校　教科「情報」で必要な課題解決のための授業デザインについて理解させる。特に、モデル化やシミュレーションの概念を把握させて、プログラミングを使って考えさえる学習デザインの理論を身につけさせる。模擬授業を通して情報セキュリティの重要を認識させる。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業計画<br>第１回：課題解決のための授業のデザイン（理論編）<br>第２回：課題解決のための授業のデザイン（演習編）<br>第３回：プログラミングを取り入れた学習デザイン（理論編）<br>第４回：プログラミングを取り入れた学習デザイン（演習編）<br>第５回：モデル化を活用したシミュレーション<br>第６回：情報セキュリティとネットワーク<br>第７回：探究的な学びを取り入れた年間指導計画の作り方<br>第８回：年間指導計画と評価・改善のあり方<br>第９回：学習指導案と学習指導要領の位置づけ<br>第１０回：学習指導案の作成方法<br>第１１回：ICTを活用した模擬授業の実施と相互評価<br>第１２回：情報セキュリティに関する模擬授業の実施<br>第１３回： 授業の評価方法について<br>第１４回： 授業コンテンツの作成方法<br>第１５回：授業コンテンツの作成とデータの活用<br>定期試験</td></tr>
<tr><td colspan="4">テキスト<br>文部科学省　高等学校学習指導要領（最新版）<br>文部科学省　高等学校学習指導要領（最新版）解説　情報編</td></tr>
</table>

| |
|---|
| 鹿野利春他著　情報科教育法（2022）実教出版（2400円＋税）ISBN:978-4407355215 |
| 参考書・参考資料等<br>文部科学省　高等学校情報科「情報Ⅰ」教員研修用教材（本編）（最新版）<br>文部科学省　高等学校情報科「情報Ⅱ」教員研修用教材（本編）（最新版）<br>　＊ https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416746.htmに掲載 |
| 学生に対する評価<br>課題・レポート（30%）、定期試験（70%）の成績等を総合的に評価する。 |

<table>
<tr><td>授業科目名：<br>道徳教育論</td><td>教員の免許状取得のための<br>選択科目</td><td>単位数：<br>２単位</td><td>担当教員名：<br>早川　裕隆<br>担当形態：単独</td></tr>
<tr><td>科　目</td><td colspan="3">大学が独自に設定する科目</td></tr>
<tr><td>施行規則に定める<br>科目区分又は事項等</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="4">授業のテーマ及び到達目標<br>　中学校において道徳授業を実際に行える。生徒の実態や資料に応じ、発達段階も考慮しながら、主体やねらいを明確にした発問や、指導方法を工夫して取り入れることができる。道徳教育の全体計画や、特別の教科 道徳の年間指導計画を作成することができる。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の概要<br>　道徳教育に関する様々な理論と実践を取り上げ、道徳性やその育成について検討する。さらに、道徳教育の要としての「特別の教科 道徳」の指導案の作成や模擬授業の実施を通して、授業の造り方や、主題やねらいを明確にした指導方法の工夫の在り方などについて、実感的に理解する。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業計画<br>第１回：道徳教育とは何か<br>第２回：道徳教育と道徳科が目指すものーその関連と違いー<br>第３回：道徳性や道徳性の発達について ー道徳科で育成する資質・能力ー<br>第４回：道徳の歴史 ー教科化の意味や意義ー<br>第５回：中学校学習指導要領① 道徳教育と道徳科の目標や内容項目を中心に<br>第６回：中学校学習指導要領② 道徳教育全体計画や別葉、道徳科の年間指導計画の内容や役割、作成の仕方<br>第７回：道徳教育の授業理論<br>第８回：学習指導案の構造の理解<br>第９回：学習指導案の作成 主題・ねらい・中心発問と基本発問<br>第10回：授業の実際…板書・終末の学習の振り返りと学習シートの工夫<br>第11 回：授業の実際…補助発問・生徒理解と評価のあり方<br>第12 回：指導方法① 模擬授業…自我関与が中心の話し合いによる学習や問題解決的な学習の実際<br>第13 回：指導方法② 模擬授業…道徳的行為に関する体験的な学習としての役割演技の実際<br>第14 回：授業展開の体験 ーねらいと中心発問、補助発問の在り方を中心にー<br>第15 回：授業展開の体験 ー問題解決的な学習や、役割演技の監督の役割ー</td></tr>
<tr><td colspan="4">テキスト<br>文部科学省「中学校学習指導要領　解説　特別の教科　道徳編」（最新版）（教育出版）</td></tr>
</table>

| |
|---|
| 参考書・参考資料等<br>文部科学省　小学校学習指導要領（最新版）、文部科学省　中学校学習指導要領（最新版）<br>文部科学省「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」（最新版）<br>早川 裕隆『実感的に理解を深める！　体験的な学習「役割演技」でつくる道徳授業』（明治図書）<br>汐見稔幸（監修），奈須正裕（監修），上地完治（編集）『道徳教育の理論と実践』（ミネルヴァ書房）<br>その他、授業時に適宜紹介する。 |
| 学生に対する評価<br>最後に課題として提出する指導案（７０％）の他、授業中の小レポート（１０％）、グループによる授業構想の様子や学びの内容（２０％）から、総合的に行う。 |

<table>
<tr><td>授業科目名：<br>日本国憲法</td><td>教員の免許状取得のための<br>必修科目</td><td>単位数：<br>２単位</td><td>担当教員名：上田　理恵子<br>担当形態：単独</td></tr>
<tr><td>科　目</td><td colspan="3">教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目</td></tr>
<tr><td>施行規則に定める<br>科目区分又は事項等</td><td colspan="3">・日本国憲法</td></tr>
</table>

授業のテーマ及び到達目標

１．日本国憲法の歴史や構造、論点について要点を簡潔に説明することができる。
２．憲法解釈の方法に関する基本的な特徴について説明することができる。
３．基本的な憲法判例の意義について説明することができる。
４．憲法に関わる現在の諸論点について、正確な知識をもとに議論することができる。

授業の概要

憲法の概念と歴史、日本国憲法の特質、人権論、統治機構の基本事項を理解し、論点を考察する。

自立した市民として、地域や国際社会で生活を送るうえで、最高規範として位置づけられる憲法の価値を活かす能力を身につけられることが長期的なねらいである。

そのために、個別のテーマごとに憲法の目指す理念と複数の考え方が対立する現状を理解したうえで、自分なりの意見を持てるようになることを、各回のねらいとする。

授業計画

第１回 ガイダンス・憲法の基礎
第２回 選挙と参政権
第３回 国会の役割
第４回 行政権と議院内閣制
第５回 司法権と裁判制度
第６回 象徴天皇制
第７回 平和主義と憲法９条
第８回 人権の理念・歴史・特質
第９回 人権総論に関する諸論点
第 10 回 信教の自由と政教分離
第 11 回 表現の自由
第 12 回 経済的自由
第 13 回 人身の自由
第 14 回 社会的諸権利
第 15 回 幸福追求権と平等
定期試験

テキスト

プレステップ憲法 第 3 版、駒村圭吾編、弘文堂

参考書・参考資料等

小型・中型の六法を持参すること。最新版が望ましい。以下を例に挙げておくが、他社のものでもかまわない。ポケット六法　有斐閣、デイリー六法　三省堂

学生に対する評価

毎回の授業後の課題（50%）＋定期試験または期末レポート（50%）
総合結果の概ね６割以上の成績を修めたものを合格とする。

<table>
<tr><td>授業科目名：<br>健康・スポーツ／講義</td><td>教員の免許状取得のための<br>必修科目</td><td>単位数：<br>１単位</td><td>担当教員名：水谷　秀樹<br>担当形態：単独</td></tr>
<tr><td colspan="2">科　目</td><td colspan="2">教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目</td></tr>
<tr><td colspan="2">施行規則に定める<br>科目区分又は事項等</td><td colspan="2">・体育</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業のテーマ及び到達目標<br>１）国や地方公共団体における政策等、健康・スポーツを支える環境の現状と課題、さらに、スポーツの価値について理解することができる。<br>２）健康と運動の関係を理解し、自らがより健康に過ごすための生活習慣の課題を認識することができる。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の概要<br>この授業には２つのねらいがあります。<br>１．スポーツを人が豊かに生きるために必要な基本的権利と位置づけ、生涯を通してスポーツを楽しんでいくために、総合型地域スポーツクラブ等のスポーツを実施する組織や生涯スポーツ振興施策等スポーツを取り巻く様々な環境について理解し、ライフステージに対応したスポーツについて学ぶ。<br>２．現代は、治る病気よりも一生付き合っていくしかない生活習慣病が、健康における最大の問題となっている。生活習慣と健康の関係について理解し、自分のライフスタイルを見つめ、望ましい生活習慣を身に付けることを学ぶ。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業計画<br>第１回：生涯スポーツの今日的意義と課題<br>第２回：ライフステージに対応したスポーツとの関わり<br>第３回：総合型地域スポーツクラブの育成と展開<br>第４回：各自治体におけるスポーツ振興施策とその活用<br>第５回：健康とは<br>第６回：生活習慣（運動）<br>第７回：生活習慣（栄養）<br>第８回：生活習慣（休養）<br>定期試験</td></tr>
<tr><td colspan="4">テキスト<br>特になし</td></tr>
<tr><td colspan="4">参考書・参考資料等<br>資料を配付する。<br>田口　貞善監修：『健康・運動の科学』、講談社<br>福永　哲夫他編：『体育・スポーツ科学概論』、大修館書店</td></tr>
<tr><td colspan="4">学生に対する評価<br>各回における小レポート（30%）、期末テスト（70%）</td></tr>
</table>

| 授業科目名：<br>健康・スポーツ／実技 | 教員の免許状取得のための<br>必修科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：水谷　秀樹<br>担当形態：単独 |
|---|---|---|---|
| 科　目 | 教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目 | | |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等 | ・体育 | | |

授業のテーマ及び到達目標

本授業の履修により以下の能力、知識、技術の修得を目指す。
- ・健康の維持・増進又は体力の向上
- ・運動やスポーツの原理を理解し、課題解決に取り組むことができる
- ・運動やスポーツを楽しむことができる
- ・運動やスポーツを通して他人との交流ができる

授業の概要

本授業には３つのねらいがあります。

１．生涯続けることのできる運動やスポーツ種目を選び、楽しく継続できるようになること。
２．健康の維持・増進や体力の向上を図ること。
３．自分の課題を見つけ、解決のための取り組みができるようになること。

上記のねらいを達成するために、運動又はスポーツ種目に分かれ、体力評価を行います。

それぞれの運動又はスポーツ種目において、それを楽しむための基本的ルールを学び、実際に実施しながら、必要な基本的技術を学びます。さらに、目標を設定し挑戦する、またはゲームを楽しむ方法を学びます。毎回各自が授業時の課題を確認し、授業後にその成果について自己評価を行います。

最後に体力評価を行い、授業の３つのねらいについて毎週の記録内容をまとめ、考察しレポートとして提出することで、運動を生活に取り入れる意義を理解します。

授業計画

第１回：健康・スポーツ／実技のコース分けとガイダンス
第２回：体力評価と基本的ルールについて
第３回：器具・用具等に慣れ、既に持っている技術で運動・スポーツを楽しむ
第４回：基本的技術の理解と実践及び課題設定（上肢・体幹の動きを中心に）
第５回：基本的技術の理解と実践及び課題設定（下肢の動きを中心に）
第６回：ルールを工夫してゲーム又は目標への挑戦を楽しむ
第７回：基本的技術の理解と実践及び課題設定（強さ・速度を求めて）
第８回：基本的技術の理解と実践及び課題設定（持久性を求めて）
第９回：ルールを発展させゲーム又は目標への挑戦を楽しむ
第10回：基本的戦術の理解と実践及び課題設定（仲間との協力）
第11回：基本的戦術の理解と実践及び課題設定（相手への対応）
第12回：正式のルールでゲーム又は目標への挑戦を楽しむ
第13回：大会・イベントの企画
第14回：大会・イベントの運営
第15回：体力評価及びレポートの作成方法について

テキスト

資料を配付する

参考書・参考資料等

田口貞善，矢部京之助，伊坂忠夫編：『スポーツサイエンス入門』，丸善

学生に対する評価

毎回の授業において提出を求める実施記録（75%）、レポート（25%）

| 授業科目名：<br>ＥＳＰＩ(Level-based) | 教員の免許状取得のための<br>選択科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：木村 裕三<br>担当形態：単独 |
|---|---|---|---|
| 科　目 | 教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目 | | |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等 | ・外国語コミュニケーション | | |

授業のテーマ及び到達目標
(1)これまでに培ってきた英語力に応じて、各専門に緩やかに寄り添った英文を読んだり聞いたりしてその内容を理解することができる。
(2) 読んだり聞いたりして理解した英語を踏まえ、自分の英語で話したり書いたりすることで情報発信ができる。

授業の概要
「聞く」「話す」「読む」「書く」能力の向上を目指し，グローバル化する社会に対応しうる基礎的な英語力を養う。

授業計画
授業テーマ：「日本」について英語で書かれたガイドブックを通して、「日本」が世界でどのように受け止められているのかを知ると同時に、「日本」について再発見する（リーディング活動）。また、各リーディング活動の内容と合致するオンライン動画を視聴し、日本への理解を深めると同時に、「生きた英語」に触れる機会とする。各動画視聴後にはサマリーライティングを行う（動画視聴活動）。

１．オリエンテーション、英語で行う自己紹介と他己紹介
２．リーディング活動① First Encounters、動画視聴活動①　富山について
３．リーディング活動② Mountains、動画視聴活動②　日本の自然について
４．リーディング活動③ Traditional Homes、動画視聴活動③　日本の伝統的な建築について
５．リーディング活動④ Video Games、動画視聴活動④　海外で人気のある日本のテレビゲームについて
６．リーディング活動⑤ Manga and Anime (Part 1)、動画視聴活動⑤　海外で人気のある日本の漫画について
７．英語の勉強の仕方１（英語学習を、より気軽に日常に取り入れる方法を紹介する。）
８．リーディング活動⑥ Manga and Anime (Part 2)、動画視聴活動⑥　海外で人気のある日本のアニメについて
９．リーディング活動⑦ Otaku Japan、動画視聴活動⑦　海外の Otaku 文化について
１０．リーディング活動⑧ Japan on Screen、動画視聴活動⑧　英語吹替のある日本映画について
１１．リーディング活動⑨ Gadgets、動画視聴活動⑨　日本が生んだガラパゴス製品について
１２．リーディング活動⑩ The Kabuki Experience & A Geisha's World、動画視聴活動⑩　英語で観る歌舞伎について
１３．リーディング活動⑪ Sports、動画視聴活動⑪　世界で活躍する日本人アスリートについて
１４．英語の勉強の仕方２（英語学習を、より気軽に日常に取り入れる方法を紹介する。）
１５．リーディング活動と動画視聴活動のまとめ（グループで学習内容を振り返り、期末試験に備え

| |
|---|
| る。）<br>期末試験 |
| テキスト<br>Be More Japan: The Art of Japanese Living, DK Eyewitness, 2019 |
| 参考書・参考資料等<br>TED: Ideas worth spreading. (https://www.ted.com) |
| 学生に対する評価<br>達成目標(1) --- 60%<br>達成目標(2)--- 40%<br>上記の達成目標について、下記の方法で評価する。<br>期末試験でのリーディング活動の理解度：60%<br>期末試験での動画視聴活動の理解度：20%<br>各動画視聴活動に付随するサマリーライティング活動：20% |

<table>
<tr><td>授業科目名：<br>ＥＳＰⅡ(Interest-based)</td><td>教員の免許状取得のための<br>選択科目</td><td>単位数：<br>１単位</td><td>担当教員名：木村 裕三</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>担当形態：単独</td></tr>
<tr><td>科　目</td><td colspan="3">教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目</td></tr>
<tr><td>施行規則に定める<br>科目区分又は事項等</td><td colspan="3">・外国語コミュニケーション</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業のテーマ及び到達目標<br>(1) ESPⅠ・基盤英語Ⅰの成果を礎とし、ESPⅡの各テーマにそってより進んだレベルの英文を読んだり聞いたりしてその内容を理解することができる。<br>(2) 読んだり聞いたりして理解した英語を踏まえ、自分の英語で話したり書いたりすることで情報発信ができる。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の概要<br>ESPⅡの授業の各テーマに沿って「聞く」「話す」「読む」「書く」能力の向上を目指し，グローバル化する社会に対応しうる基礎的な英語力を養う。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業計画<br>本授業テーマ：「スピーキング・ライティング」<br>・毎回担当者が教材開発したTED動画のMoodle上の教材を使用して英語の四技能五領域（「読むこと」「書くこと」「聴くこと」「発話すること（遣り取り）」「発話すること（発表）」）の能力を醸成する。<br><br>第１回：授業の到達目標や概要，授業時間外学修などについて説明。<br>TED動画（トピック１）をスクリプトと並行して視聴（「読む」「聞く」）<br>TED動画（トピック１）に関するグループディスカッション1（「発話（遣り取り）」）<br>トピック１の学生1名による全体への発表と質疑応答（「発話（発表）」）<br>第２回：TED動画（トピック2）をスクリプトと並行して視聴（「読む」「聞く」）<br>TED動画（トピック２）に関するグループディスカッション２（「発話（遣り取り）」）<br>トピック２の学生1名による全体への発表と質疑応答（「発話（発表）」）<br>第３回：TED動画（トピック3）をスクリプトと並行して視聴（「読む」「聞く」）<br>TED動画（トピック３）に関するグループディスカッション３（「発話（遣り取り）」）<br>トピック３の学生1名による全体への発表と質疑応答（「発話（発表）」）<br>トピック３のパラグラフライティング指導とエッセイライティング課題の回収（「書くこと」）」添削と返却<br>第４回：確認テスト1（第1回～第3回までのまとめ問題（聴解問題、読解問題、エッセイ作文問題、モノローグ発話問題））、総括、解説<br>第５回：TED動画（トピック4）をスクリプトと並行して視聴（「読む」「聞く」）<br>TED動画（トピック4）に関するグループディスカッション4（「発話（遣り取り）」）<br>トピック4の学生1名による全体への発表と質疑応答（「発話（発表）」）<br>第６回： TED動画（トピック5）をスクリプトと並行して視聴（「読む」「聞く」）<br>TED動画（トピック5）に関するグループディスカッション5（「発話（遣り取り）」）<br>トピック5の学生1名による全体への発表と質疑応答（「発話（発表）」）<br><br>第７回： TED動画（トピック6）をスクリプトと並行して視聴（「読む」「聞く」）<br>TED動画（トピック6）に関するグループディスカッション6（「発話（遣り取り）」）<br>トピック6の学生1名による全体への発表と質疑応答（「発話（発表）」）</td></tr>
</table>

トピック6のパラグラフライティング指導とエッセイライティング課題の回収（「書くこと」））」添削と返却
第８回：確認テスト2（第4回～第7回までのまとめ問題（聴解問題、読解問題、エッセイ作文問題、モノローグ発話問題）、総括、解説
第９回： TED動画（トピック7）をスクリプトと並行して視聴（「読む」「聞く」）
TED動画（トピック7）に関するグループディスカッション7（「発話（遣り取り）」）
トピック7の学生1名による全体への発表と質疑応答（「発話（発表）」）
第10回：TED動画（トピック8）をスクリプトと並行して視聴（「読む」「聞く」）
TED動画（トピック8）に関するグループディスカッション8（「発話（遣り取り）」）
トピック8の学生1名による全体への発表と質疑応答（「発話（発表）」）
第11回：TED動画（トピック9）をスクリプトと並行して視聴（「読む」「聞く」）
TED動画（トピック9）に関するグループディスカッション9（「発話（遣り取り）」）
トピック9の学生1名による全体への発表と質疑応答（「発話（発表）」）
トピック9のパラグラフライティング指導とエッセイライティング課題の回収（「書くこと」））」添削と返却
第12回：確認テスト3（第9回～第11回までのまとめ問題（聴解問題、読解問題、エッセイ作文問題、モノローグ発話問題）、総括、解説
第13回：TED動画（トピック10）をスクリプトと並行して視聴（「読む」「聞く」）
TED動画（トピック10）に関するグループディスカッション10（「発話（遣り取り）」）
トピック10の学生1名による全体への発表と質疑応答（「発話（発表）」）
第14回：TED動画（トピック11）をスクリプトと並行して視聴（「読む」「聞く」）
TED動画（トピック11）に関するグループディスカッション11（「発話（遣り取り）」）
トピック11の学生1名による全体への発表と質疑応答（「発話（発表）」）
第15回：TED動画（トピック12）をスクリプトと並行して視聴（「読む」「聞く」）
TED動画（トピック12）に関するグループディスカッション12（「発話（遣り取り）」）
トピック12の学生1名による全体への発表と質疑応答（「発話（発表）」）
トピック12のパラグラフライティング指導とエッセイライティング課題の回収（「書くこと」））」添削と返却
定期試験：確認テスト4（第13回～第15回までのまとめ問題（聴解問題、読解問題、エッセイ作文問題、モノローグ発話問題）

テキスト
特になし

参考書・参考資料等
Savage, A. & Shafiei, M. (2012) *Effective academic writing. Second ed.* New York NY: Oxford University Press. ISBN: 978-0-19-432346-8
TED: Ideas worth spreading. (https://www.ted.com)

学生に対する評価
達成目標(1) --- 60%
達成目標(2)--- 40%
上記の達成目標について、下記の方法で評価する。
確認テスト１～４（80%） ALCネットアカデミーの学修ログ結果（20%）

<table>
<tr><td>授業科目名：<br>ドイツ語コミュニケーションⅠ</td><td>教員の免許状取得のための<br>選択科目</td><td>単位数：<br>１単位</td><td>担当教員名：名執　基樹<br>担当形態：単独</td></tr>
<tr><td colspan="2">科　目</td><td colspan="2">教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目</td></tr>
<tr><td colspan="2">施行規則に定める<br>科目区分又は事項等</td><td colspan="2">・外国語コミュニケーション</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業のテーマ及び到達目標<br>・ドイツ語のアルファベットや単語を発音できる。<br>・基本語彙を習得して、簡単なドイツ語文を読んだり聞いたりして理解し、また簡単な内容を口頭または筆記で表現できる。<br>・ドイツ語およびドイツ語圏、ヨーロッパ文化について、ある程度の知識を獲得する。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の概要<br>ドイツ語の基礎を学ぶ。単語の発音練習や簡単な会話的表現の口頭練習と、辞書を引きながら文章を読解する練習を２つの柱として授業を進める。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業計画<br>教科書に沿ってドイツ語の学習を進めていく。その際、教科書付属のＤＶＤなどの映像資料を用いて視覚的にもドイツに親しみ、ドイツの社会・文化・日常・歴史への関心を高め、ことばが文化の担い手であることの認識を深めていく。<br>第１回：導入。授業の概要説明。ドイツ語圏について。アルファベット。発音の基礎。<br>第２回：挨拶など、人と知り合うときに必要な表現を学ぶ。<br>第３回：自己紹介や、人を紹介する表現を学ぶ。<br>第４回：趣味や好きな飲食物の伝え方を学ぶ。<br>第５回：人を誘うときの表現を学ぶ。<br>第６回：乗り物に乗る際に使う表現を学ぶ。<br>第７回：国名や職業名、交通手段の言い方を学ぶ。<br>第８回：買い物で用いる表現、値段の尋ね方や答え方を学ぶ。<br>第９回：身につける物や親族名称を学ぶ。<br>第10回：前置詞を使ったいろいろな表現を学ぶ。<br>第11回：道の尋ね方や答え方、位置や方向を表す表現を学ぶ。<br>第12回：建物や施設の名称を学ぶ。<br>第13回：週末や休暇の予定を伝える際の表現を学ぶ。<br>第14回：時刻の尋ね方や言い方、天候を表す表現を学ぶ。<br>第15回：一日の行動や日常生活を表す表現を学ぶ。<br>定期試験</td></tr>
<tr><td colspan="4">テキスト<br>小野寿美子（他）『クロイツング・ネオ』朝日出版社</td></tr>
<tr><td colspan="4">参考書・参考資料等<br>在間進『アクセス独和辞典』三修社</td></tr>
<tr><td colspan="4">学生に対する評価<br>定期試験と平常点（課題への取り組み姿勢、小テスト等）で総合的に評価する。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名：<br>ドイツ語コミュニケーションⅡ</td><td>教員の免許状取得のための<br>選択科目</td><td>単位数：<br>１単位</td><td>担当教員名：名執　基樹<br>担当形態：単独</td></tr>
<tr><td colspan="2">科　目</td><td colspan="2">教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目</td></tr>
<tr><td colspan="2">施行規則に定める<br>科目区分又は事項等</td><td colspan="2">・外国語コミュニケーション</td></tr>
</table>

授業のテーマ及び到達目標

・基本語彙をさらに習得して、前期（ドイツ語コミュニケーションＩ）よりは少し難しいドイツ語文でも読んだり聞いたりして理解し、また簡単な内容を口頭または筆記で表現できる。
・ドイツ語およびドイツ語圏、ヨーロッパ文化についての知識をさらに増やす。

授業の概要

前期（ドイツ語コミュニケーションＩ）に引き続き、ドイツ語の基礎を学ぶ。単語の発音練習や簡単な会話表現の口頭練習と、辞書を引きながら文章を読解する練習を２つの柱として授業を進める。

授業計画

教科書に沿ってドイツ語の学習を進めていく。その際、教科書付属のＤＶＤなどの映像資料を用いて視覚的にもドイツに親しみ、ドイツの社会・文化・日常・歴史への関心を高め、ことばが文化の担い手であることの認識を深めていく。

第１回：過去の出来事について現在完了形を使って表現する方法を学ぶ。
第２回：時を表すさまざまな語句を学ぶ。
第３回：過去の出来事について過去形を使って表現する方法を学ぶ。
第４回：「～がある」など位置に関する表現を学ぶ。
第５回：願望や要望を伝えるときの表現を学ぶ。
第６回：「どんな種類の？」「どのような？」を表す表現を学ぶ。
第７回：食べ物や色の名称を学ぶ。
第８回：過去の出来事に関する質問の仕方を学ぶ。
第９回：形容詞を使った比較の表現方法を学ぶ。
第10回：受動態を使った表現方法を学ぶ。
第11回：開店や閉店の時刻などの尋ね方や答え方を学ぶ。
第12回：関係文を使った少し複雑な表現を学ぶ。
第13回：誰かが言ったことを伝える際の表現を学ぶ。
第14回：非現実な空想を述べる際の表現方法を学ぶ。
第15回：丁寧な表現、婉曲なものの言い方を学ぶ。
定期試験

テキスト

小野寿美子（他）『クロイツング・ネオ』朝日出版社

参考書・参考資料等

在間進『アクセス独和辞典』三修社

学生に対する評価

定期試験と平常点（課題への取り組み姿勢、小テスト等）で総合的に評価する。

<table>
<tr><td rowspan="2">授業科目名：<br>フランス語コミュニケーションⅠ</td><td rowspan="2">教員の免許状取得のための<br>選択科目</td><td rowspan="2">単位数：<br>１単位</td><td>担当教員名：中島　淑恵</td></tr>
<tr><td>担当形態：単独</td></tr>
<tr><td>科　目</td><td colspan="3">教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目</td></tr>
<tr><td>施行規則に定める<br>科目区分又は事項等</td><td colspan="3">・外国語コミュニケーション</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業のテーマ及び到達目標<br>１．フランス語の発音がわかる（文字と発音の対応関係がわかる）。<br>２．おおまかなフランス語の文法体系が理解できる。<br>３．基本的なフランス語の文法が理解でき、運用できる。<br>４．簡単な日常会話が理解できる。<br>５．フランスおよびフランス語・フランス文化についての基本的な知識が深まる。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の概要<br>フランス語を初めて学ぶ人のために、フランス語の発音、基本的な文法事項を学び、簡単な日常会話を理解し、自ら表現できるようにする。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業計画<br>第１回：イントロダクション・第0課（p.6-11）　挨拶をする。名前を尋ねる・言う。<br>第２回：第１課（p.14-17）職業・身分を言う。国籍を言う。（文法事項の確認と会話表現の導入）<br>第３回：第１課（p.14-17）職業・身分を言う。国籍を言う。（練習問題と会話の反復練習）<br>第４回：第２課（p.18-21）住んでいる所を尋ねる・言う。話せる言語を言う。数字（0－19）。<br>（文法事項の確認と会話表現の導入）<br>第５回：第２課（p.18-21）住んでいる所を尋ねる・言う。話せる言語を言う。数字（0－19）。<br>（練習問題と会話の反復練習）<br>第６回：第３課（p.22-25）家族について話す。年齢を尋ねる・言う。数字（20－100）。<br>（文法事項の確認と会話表現の導入）<br>第７回：第３課（p.22-25）家族について話す。年齢を尋ねる・言う。数字（20－100）。<br>（練習問題と会話の反復練習）<br>第８回：第４課（p.26-29）好みを言う。理由を尋ねる・言う。（文法事項の確認と会話表現の導入）<br>第９回：第４課（p.26-29）好みを言う。理由を尋ねる・言う。（練習問題と会話の反復練習）<br>第10回：第５課（p.34-37）物について尋ねる・説明する。位置や場所を尋ねる・言う。<br>（文法事項の確認と会話表現の導入）<br>第11回：第５課（p.34-37）物について尋ねる・説明する。位置や場所を尋ねる・言う。<br>（練習問題と会話の反復練習）<br>第12回：第６課（p.38-41）容姿や服装を尋ねる・説明する。持ち主を言う。</td></tr>
</table>

| |
|---|
| （文法事項の確認と会話表現の導入）<br>第13回：第６課（p.38-41）容姿や服装を尋ねる・説明する。持ち主を言う。<br>（練習問題と会話の反復練習）<br>第14回：第７課（p.42-45）移動について説明する。交通手段を言う。<br>（文法事項の確認と会話表現の導入）<br>第15回：第８課（p. 46‐49）天候について話す。時刻を尋ねる・言う。<br>定期試験 |
| テキスト<br>Emmanuel Antier, 三上純子著『フラッシュ！―絵とアクティヴィテで学ぶフランス語―』駿河台出版社、2015年。ISBN978-4-411-01118-3 |
| 参考書・参考資料等<br>倉方秀憲他編『プチ・ロワイヤル仏和辞典』第4版、旺文社、2010年<br>ISBN:9784010753088<br>天羽均他編『クラウン仏和辞典』第7版、三省堂、2015年<br>ISBN:978-4-385-11933-5<br>その他上記以外の初心者向け学習仏和辞典（種類は問わない）。 |
| 学生に対する評価<br>平常点（毎回の小テストの点数と授業への参加度（発言の回数・内容など））70%、期末試験30%で総合的に評価を行う。 |

<table>
<tr><td>授業科目名：<br>フランス語コミュニケ<br>ーションⅡ</td><td>教員の免許状取得のための<br>選択科目</td><td>単位数：<br>１単位</td><td>担当教員名：中島　淑恵<br>担当形態：単独</td></tr>
<tr><td colspan="2">科　目</td><td colspan="2">教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目</td></tr>
<tr><td colspan="2">施行規則に定める<br>科目区分又は事項等</td><td colspan="2">・外国語コミュニケーション</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業のテーマ及び到達目標<br>１．フランス語で書かれた文章が正しく発音できる。<br>２．基本的なフランス語の文法が理解でき、運用できる。<br>３．フランス語で書かれたある程度の長さの文章を理解することができる。<br>４．以上の事柄について、フランス語で聞き取り・書き取りができる。<br>５．フランスおよびフランス語・フランス文化についての基本的な知識がさらに深まる。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の概要<br>フランス語を半年程度学んだ人を対象に、初歩的な文法事項を学び、簡単な文章を読み、聴いて理解したり話したり書いたりして表現できるようにする。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業計画<br>第１回：第９課（p. 54-57）食習慣について話す。値段を尋ねる・言う。<br>（文法事項の確認と会話表現の導入）<br>第２回：第９課（p. 54-57）食習慣について話す。値段を尋ねる・言う。（練習問題と会話の反復練習）<br>第３回：第10課（p. 58-61）習慣について話す。日常の活動について話す。数（100～999999）。<br>（文法事項の確認と会話表現の導入）<br>第４回：第10課（p. 58-61）習慣について話す。日常の活動について話す。数（100～999999）。<br>（練習問題と会話の反復練習）<br>第５回：第11課（p. 62-65）過去のことを話す（１）いつのことだったかを言う。<br>（文法事項の確認と会話表現の導入）<br>第６回：第11課（p. 62-65）過去のことを話す（１）いつのことだったかを言う。<br>（練習問題と会話の反復練習）<br>第７回：第12課（p. 66-69）過去のことを話す（２）。期間を言う。<br>（文法事項の確認と会話表現の導入）。<br>第８回：第12課（p. 66-69）過去のことを話す（２）。期間を言う。（練習問題と会話の反復練習）<br>第９回：第13課（p. 70-73）過去の習慣について話す。変化を表す。<br>（文法事項の確認と会話表現の導入）<br>第10回：第13課（p. 70-73）過去の習慣について話す。変化を表す。（練習問題と会話の反復練習）<br>第11回：第14課（p. 78-81）人を誘う、できること・しなければならないことを言う。目的を言う。</td></tr>
</table>

| |
|---|
| 許可を求める・許可する・禁止する。（文法事項の確認と会話表現の導入）<br>第12回：第14課（p.78-81）人を誘う、できること・しなければならないことを言う。目的を言う。<br>許可を求める・許可する・禁止する。（練習問題と会話の反復練習）<br>第13回：第15課（p.82-85）未来の出来事について話す。条件・過程を述べる（1）<br>（文法事項の確認と会話表現の導入）<br>第14回：第15課（p.82-85）未来の出来事について話す。条件・過程を述べる（1）<br>（練習問題と会話の反復練習）<br>第15回：第16課（p.86-89）願望を述べる、仮定を述べる、比較する。全体のまとめ。<br>定期試験 |
| テキスト<br>Emmanuel Antier，三上純子著『フラッシュ！―絵とアクティヴィテで学ぶフランス語―』駿河台出版社、2015年。ISBN978-4-411-01118-3 |
| 参考書・参考資料等<br>倉方秀憲他編『プチ・ロワイヤル仏和辞典』第4版、旺文社、2010年<br>ISBN:9784010753088<br>天羽均他編『クラウン仏和辞典』第7版、三省堂、2015年<br>ISBN:978-4-385-11933-5<br>その他上記以外の初心者向け学習仏和辞典（種類は問わない）。 |
| 学生に対する評価<br>平常点（毎回の小テストの点数と授業への参加度（発言回数・内容など））70%、期末試験30%で総合的に評価を行う。 |

<table>
<tr><td>授業科目名：<br>中国語コミュニケーションⅠ</td><td>教員の免許状取得のための<br>選択科目</td><td>単位数：<br>１単位</td><td>担当教員名：福田　翔<br>担当形態：単独</td></tr>
<tr><td colspan="2">科　目</td><td colspan="2">教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目</td></tr>
<tr><td colspan="2">施行規則に定める<br>科目区分又は事項等</td><td colspan="2">・外国語コミュニケーション</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業のテーマ及び到達目標<br>・中国語のローマ字表記であるピンインに従って発音することができる<br>・発音を聞いてピンインで書き取れるようになる<br>・授業で習った単語を簡体字・ピンインで書けるようにする<br>・簡単な自己紹介や、あいさつなどの基本的な日常表現ができるようになる</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の概要<br>現代中国語の基本的な発音ができ、かつ聴いて理解でき、読んで理解できることを目指します。<br>初めて中国語を学ぶ人が最も難しいと感じ、また最も大事なのはその発音でしょう。発音記号としてはピンイン（中国式ローマ字）を用いますが、その読み方は中国独自のものですし、発音や声調（音の高低変化）もあって、日本語や英語とは全然違います。最初に発音を徹底的に練習して、中国語の正確な発音を習得し、なおかつ聴きとれるようにします。<br>中国語は日本語と同じく漢字を用いて表記します。しかし、現代中国語では簡体字（中国式字体）を用いていますので、見ただけですぐに意味が理解できるわけではありません。したがって、ごく基本的な簡体字の習得を行います。<br>次に日常会話をあつかったテキストに沿い、発音・聞き取りの練習を繰り返すことで、あいさつをはじめとする簡単な会話ができるようになることを目指します。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業計画<br>第１回：ガイダンス<br>第２回：第１課　中国語の発音（１）　声調・単母音・複合母音<br>第３回：第２課　中国語の発音（２）　子音（１）・第３声<br>第４回：第３課　中国語の発音（３）　子音（２）・“不”の変調<br>第５回：第４課　中国語の発音（４）　鼻母音・アル化音・“一”の変調<br>第６回：発音の復習<br>第７回：第５課　人称代名詞など<br>第８回：第５課　練習問題<br>第９回：第６課　指示代名詞など<br>第 10 回：第６課　練習問題<br>第 11 回：これまでの復習とまとめ<br>第 12 回：第７課　時刻の表現など<br>第 13 回：第７課　練習問題<br>第 14 回：第８課　回数の表現など<br>第 15 回：第８課　練習問題・復習２<br>定期試験</td></tr>
<tr><td colspan="4">テキスト<br>胡金定・吐山明月『すぐ話せる中国語』（朝日出版社）</td></tr>
<tr><td colspan="4">参考書・参考資料等<br>守谷宏則「やさしくくわしい中国文法の基礎」（東方書店）<br>相原茂・石田知子・戸沼市子「Ｗｈｙ？にこたえるはじめての中国語の文法書 」（同学社）</td></tr>
<tr><td colspan="4">学生に対する評価<br>平常点（小テストなど）、中間テスト、期末テストを総合して評価します。</td></tr>
</table>

| 授業科目名：<br>中国語コミュニケーションⅡ | 教員の免許状取得のための<br>選択科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：福田　翔<br>担当形態：単独 |
|---|---|---|---|
| 科　目 | 教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目 | | |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等 | ・外国語コミュニケーション | | |

授業のテーマ及び到達目標
・ピンイン（中国語のローマ字表記）の読み間違いなどをなくし、正しく読めるようにする
・中国語の音をより正確に発音できるようにする
・身近な事柄の紹介や簡単な旅行会話などの口頭表現ができるようになる
・相手の自己紹介などの会話が聞き取れるようになる
・簡単な手紙文などが書けるようになる

授業の概要
　中国語コミュニケーションII の授業では中国語コミュニケーションI に引き続き、テキストの本文や例文の朗読を通して、ピンインの読み方を繰り返し復習し、中国語がより正確に発音できるようになることを目指します。それとともに日常会話や簡単な旅行会話、手紙文などの中国語表現の習得を目指します。

授業計画
第１回：ガイダンス・前期の復習
第２回：第９課　方向補語など
第３回：第９課　練習問題
第４回：第 10 課　方位詞など
第５回：第 10 課　練習問題
第６回：第 11 課　選択疑問文など
第７回：第 11 課　練習問題
第８回：これまでの復習とまとめ
第９回：第 12 課　結果補語など
第 10 回：第 12 課　練習問題
第 11 回：第 13 課　受身構文など
第 12 回：第 13 課　練習問題
第 13 回：第 14 課　可能補語など
第 14 回：第 14 課　練習問題
第15回：これまでのまとめと復習
定期試験

テキスト
　胡金定・吐山明月『すぐ話せる中国語』（朝日出版社）

参考書・参考資料等
　守谷宏則「やさしくくわしい中国文法の基礎」（東方書店）
　相原茂・石田知子・戸沼市子「Ｗｈｙ？にこたえるはじめての中国語の文法書 」（同学社）

学生に対する評価
　平常点（小テストなど）、中間テスト、期末テストを総合して評価します。

<table>
<tr><td>授業科目名：<br>朝鮮語コミュニケーションⅠ</td><td>教員の免許状取得のための<br>選択科目</td><td>単位数：<br>１単位</td><td>担当教員名：和田とも美<br>担当形態：単独</td></tr>
<tr><td colspan="2">科　目</td><td colspan="2">教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目</td></tr>
<tr><td colspan="2">施行規則に定める<br>科目区分又は事項等</td><td colspan="2">・外国語コミュニケーション</td></tr>
</table>

授業のテーマ及び到達目標

１）朝鮮語を表す文字であるハングルを習得し、単純な構造の文章を理解し、作文できること。
２）簡単な対話ができるようになること。
３）朝鮮半島の文化や社会情勢を表す言葉を理解すること。

授業の概要

朝鮮語コミュニケーションⅠでは、発音・文字・文法・表現について学びます。教科書の内容と合わせて、朝鮮半島の地理や社会状況を表す言葉を学びます。

毎回確認テストを実施し、理解度を確認します。

授業計画

第１回　ハングルについて
第２回　文字の構造と発音
第３回　朝鮮半島の地名の発音と表記／「-は-です」
第４回　食文化を表すことばの発音と表記／「-は-ですか」
第５回　気候や天気を表すことばの発音と表記／「-は何ですか」
第６回　出会いの場面での基本的表現／「-は誰ですか」
第７回　食事の場面での基本的表現／「-に何がありますか」
第８回　待ち合わせの場面での基本的表現／「何をしますか」
第９回　送迎の為の基本的表現／「どこに行かれますか」
第 10 回　疑問詞を含む基本的表現／「昨日何をしましたか」
第 11 回　疑問詞を含む基本的表現／「-はいつですか」
第 12 回　疑問詞を含む基本的表現／「今何時ですか」
第 13 回　丁寧表現と尊敬表現
第 14 回　文語体と会話体
第 15 回　まとめ
定期試験

テキスト

李昌圭、朝日出版社、『韓国語へ旅しよう』初級 ISBN：978-4-255-55622-2（2500 円+税）

参考書・参考資料等

授業時プリントを配布

学生に対する評価

毎回の確認テスト 30%、期末テスト 70%

| 授業科目名：<br>朝鮮語コミュニケーションⅡ | 教員の免許状取得のための<br>選択科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：宋有宰<br>担当形態：単独 |
|---|---|---|---|
| 科　目 | 教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目 | | |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等 | ・外国語コミュニケーション | | |

授業のテーマ及び到達目標

１）前期で学習した内容を受けて、より複雑な朝鮮語の文法について学び、作文力を高める。
２）より多くの語彙や表現を学び、対話力を高める。

授業の概要

朝鮮語コミュニケーションIIでは、前期で学習した内容を受けて、より長い文章を理解して作文し、対話できるよう、発音・文法・表現を学習します。毎回確認テストを実施し、理解度を確認します。

授業計画

第１回　前期の復習
第２回　規則的な活用をする用言を使う対話
第３回　不規則活用「ㄷ다」を使う対話
第４回　不規則活用「ㄹ다」を使う対話
第５回　不規則活用「ㅂ다」を使う対話
第６回　体言の過去形を使う対話
第７回　体言の尊敬表現を使う対話
第８回　用言の尊敬表現の現在形を使う対話
第９回　用言の尊敬表現の過去形を使う対話
第10回　尊敬表現で聞き、丁寧表現で答える
第11回　否定疑問文を使う対話
第12回　許可を求める表現を使う対話
第13回　禁止する表現を使う対話
第14回　相手の意向を問う対話
第15回　後期の学習内容のふりかえり
定期試験

テキスト

李昌圭、朝日出版社『韓国語へ旅しよう』初級ISBN：978-4-255-55622-2（2500円＋税）

参考書・参考資料等

授業時プリントを配布

学生に対する評価

毎回の確認テスト30%、期末テスト70%

| 授業科目名：<br>ロシア語コミュニケーションⅠ | 教員の免許状取得のための<br>選択科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：ネースコロデワエレーナ<br>担当形態：単独 |
|---|---|---|---|
| 科　目 | 教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目 | | |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等 | ・外国語コミュニケーション | | |

授業のテーマ及び到達目標

- ネイティヴ・スピーカーに近い発音を身につける。
- ヒアリング能力を高める。
- 実践的な会話練習をとおしてコミュニケーション能力を高める。
- ロシアの習慣や現代の生活についての知識を深める。

授業の概要

まずロシア語の文字、音声、アクセント、イントネーションなどの基礎知識を学びます。そのうえで、挨拶・自己紹介・数詞の使い方などの慣用表現を学習します。

授業計画

コミュニケーションのためのロシア語を基礎からしっかり学びます。テキストをとおしてロシア語の簡単な日常会話（場所の表現、職業や家族構成の尋ね方など）を学びながら、毎回発音と聞き取りの練習を行い、またロシア人の習慣や現代の生活をヴィデオで紹介していきます。

授業では、ロールプレイ、カードゲーム、各種のシミュレーション、ペア・プラクティスなどを取り入れて、ロシア語に親しんでもらうことを目標とします。

第１回：文字と発音（１）
第２回：文字と発音（２）第１課「とてもいい！」
第３回：文字と発音（３）第１課　練習問題（挨拶と簡単な自己紹介の表現）
第４回：第２課「大学はどこですか？」
第５回：第２課　練習問題（ロシア語の名詞の「文法性」について）
第６回：第３課「これはあなたのバッグですか？」
第７回：第３課　練習問題（所有代名詞と名詞の複数形）
第８回：第４課「おじいさんは学校で働いています」
第９回：第４課　練習問題（前置格の用法）
第10回：第５課「私はバナナが好きではありません」
第11回：第５課　練習問題（対格の用法）
第12回：第６課「お店で」
第13回：第６課　練習問題（生格の用法と動詞の命令形）
第14回：第７課「あなたには好きな色がありますか？」
第15回：第７課　練習問題（形容詞＋名詞の格変化）
定期試験

テキスト

A. ディボフスキー、北岡千夏『会話で学ぶロシア語　初級』（南雲堂フェニックス）　他に文法の補助教材を配布する。

参考書・参考資料等

辞書については教場で指示する。

学生に対する評価

授業への貢献度、小テスト、期末試験を総合的に評価する。

<table>
<tr><td>授業科目名：<br>ロシア語コミュニケーションⅡ</td><td>教員の免許状取得のための<br>選択科目</td><td>単位数：<br>１単位</td><td>担当教員名：ネースコロデワ エレーナ<br>担当形態：単独</td></tr>
<tr><td colspan="2">科　目</td><td colspan="2">教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目</td></tr>
<tr><td colspan="2">施行規則に定める<br>科目区分</td><td colspan="2">・外国語コミュニケーション</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の到達目標及びテーマ<br>・　ネイティヴ・スピーカーに近い発音を身につける。<br>・　ヒアリング能力を高める。<br>・　実践的な会話練習をとおしてコミュニケーション能力を高める。<br>・　簡単なロシア語の文章をロシア語で書けるようにする。<br>・　ロシアの習慣や現代の生活についての理解を深める。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の概要<br>ロシア語の音声、アクセント、イントネーションなどを反復学習するとともに、語彙力・文法能力の向上に合わせて、ロシアへ旅行すると想定し、どのような場所を訪ねるか、どのように買い物をするかなどをシミュレーションしながらより高度なロシア語会話ができるようになることを目指します。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業計画<br>コミュニケーションのためのロシア語を基礎からしっかり学びます。テキストをとおしてロシア語の日常会話の幅（買い物、交通手段、趣味など）を広げながら、毎回発音と聞き取りの練習を行い、またロシア人の習慣や現代の生活をヴィデオで紹介していきます。<br>授業では、ロールプレイ、カードゲーム、各種のシミュレーション、ペア・プラクティスなどを取り入れて、ロシア語に親しむとともに、日常会話の規範的表現をおぼえ、簡単なテーマについて正しくきれいな発音で話せるようになることを目標にします。<br>第１回：第８課「これは誰（何）でしょう？」<br>第２回：第８課　練習問題（コミュニケーション・ゲーム）<br>第３回：第９課「ボリショイ劇場はどこですか？」<br>第４回：第９課　練習問題（運動の動詞１、СЯ動詞）<br>第５回：第10課「私は大阪に住んでいます」<br>第６回：第10課　練習問題（運動の動詞２、造格の用法、形容詞の比較級・最上級）<br>第７回：第11課「私はたくさん旅行しました」<br>第８回：第11課　練習問題（動詞の過去形、与格の用法）<br>第９回：第12課「あしたはどんな天気ですか？」<br>第10回：第12課　練習問題（未来の表現、無人称術語、時の表現）<br>第11回：第13課「勉強はむずかしいが、おもしろい」<br>第12回：第13課　練習問題（動詞完了体・不完了体）<br>第13回：第14課「アントシカは必ず態度を改めるでしょう」<br>第14回：第14課　練習問題（ｍｏｖｎｏ，　ｎｅｌｘｚｙａ，　ｎｕｖｎｏ　の用法）<br>第15回：第15課「タケシはホームシックです」<br>定期試験</td></tr>
<tr><td colspan="4">テキスト<br>A. ディボフスキー、北岡千夏『会話で学ぶロシア語　初級』（南雲堂フェニックス）　他に文法の補助教材を配布する。</td></tr>
<tr><td colspan="4">参考書・参考資料等<br>辞書については教場で指示する。</td></tr>
<tr><td colspan="4">学生に対する評価<br>授業への貢献度、小テスト、期末試験を総合的に評価する。</td></tr>
</table>

| 授業科目名：<br>日本語コミュニケーションⅠ | 教員の免許状取得のための<br>選択科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：田中　信之<br>担当形態：単独 |
|---|---|---|---|
| 科　目 | 教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目 | | |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等 | ・外国語コミュニケーション | | |

授業のテーマ及び到達目標

新入留学生がこれから始まる大学生活における勉学や研究がスムーズに行えるよう、それに係る言語活動のトレーニングを行なう。具体的には、テキストを用いながら学術的な日本語の文章やその表現になじみ、「話す」「聞く」「読む」「書く」の４技能の総合的な日本語コミュニケーション能力を高め、自分の考えたことや調べたことなどを口頭で述べたり、論文の読解練習を行なう。これらをもとに日本語でレポートを執筆することが出来るようになることを目ざす。

授業の概要

学生同士の質疑応答などの対話も重視し、学生が自ら考えたことやテキストを用いて、口頭発表、読解・作文等の活動を通してアカデミック・ジャパニーズの特徴を学ぶ。

授業計画

※ 毎回の授業において学生による口頭発表（スピーチ）を行なう。
※ 学期中に授業内容復習の複数回の「小テスト」も行なう。

第１回：本授業についてのガイダンス。自己紹介スピーチ。話し言葉・書き言葉について理解する。
第２回：論文のメインアイデア、論文的な表現について理解する。
第３回：論文のアウトラインを理解する。
第４回：論文的な文、単文と複文について理解する。
第５回：論文の基本的な構造について理解する。
第６回：論文の展開における指示表現等について理解する。
第７回：語彙について学ぶ。
第８回：論文の内容理解に関する図式化と図表について理解する。
第９回：論文の文章の構造分析について理解する。
第10回：論の進め方とその構造について理解する。
第11回：論文の文章表現（データから述べる）について理解する。
第12回：論文の文章表現（主張を述べる）について理解する。
第13回：引用について理解する。
第14回：論の展開における接続表現について理解する。
第15回：全体の総括（復習とまとめのテスト）

テキスト

『 改訂版 大学・大学院 留学生の日本語③ 論文読解編 』，アカデミック・ジャパニーズ研究会，アルク，2015年5月(改訂版)，ISBN978-4-7574-2633-7

参考書・参考資料等

日本語読解学習支援ｼｽﾃﾑ リーディング チュウ太（Webページ）　http://language.tiu.ac.jp/

学生に対する評価

学生は各自、(1)少なくとも１回のスピーチを行い、(2)スピーチの内容を論文の形にまとめレポートとして提出する。(1)(2)を行なった学生は最終回の「まとめのテスト」を受けることが出来ることとする。学期を通じて複数回行なう「小テスト」の平均と「まとめのテスト」の結果を総合的に判断して成績を付ける。（ 学習態度が極端に消極的であったり不適切な場合は、評価の対象としない。また、不正行為には厳正に対処する。）

<table>
<tr><td rowspan="2">授業科目名：<br>日本語コミュニケーションⅡ</td><td rowspan="2">教員の免許状取得のための<br>選択科目</td><td rowspan="2">単位数：<br>１単位</td><td>担当教員名：高野 登</td></tr>
<tr><td>担当形態：単独</td></tr>
<tr><td>科　目</td><td colspan="3">教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目</td></tr>
<tr><td>施行規則に定める<br>科目区分又は事項等</td><td colspan="3">・外国語コミュニケーション</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業のテーマ及び到達目標<br>　受講学生(外国人留学生)は、この授業を履修することにより、理学部・工学部で開講される専門の授業にスムーズに入れるよう履修する際に求められる専門の教科書に対する読解力、レポートを作成する能力、また日本語の語い(専門用語)を身に付けることができる。また、日本語特有の言い回しや、適切な言葉の選び方について学ぶことができる。特に、専門用語を使うにあたってのニュアンスの違いや日常会話で使われる言葉との使い分けについて習得できる。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の概要<br>　大学で学習や研究活動を進めるために必要となる日本語能力を養成します。外国人留学生を対象にした授業であり、日本語で理工系の専門科目の授業を受講する際に必要となる科学技術用語の修得を目標とする。基礎的な科学技術用語の語いの増加をはかるとともに、それらの適切な使用法を身に付けさせる。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業計画<br>第１回 数・アルファベット・数式・記号・単位<br>第２回 数学用語・幾何学用語<br>第３回 化学用語<br>第４回 表・図・フローチャート<br>第５回 道具・装置1 力学・電気・機械<br>第６回 道具・装置2 事務・工具・測定器具<br>第７回 道具・装置3 コンピュータ・化学<br>第８回 形・立体形状・形状の類推<br>第９回 位置・方向・距離<br>第10回 力学用語1 力・変位・変形<br>第11回 力学用語2 力学的性質・状態<br>第12回 状況・性質1 視覚・聴覚<br>第13回 状況・性質2 触覚・嗅覚・味覚<br>第14回 程度・量1 順序・動作<br>第15回 程度・量2 あいまいな表現<br>期末試験</td></tr>
<tr><td colspan="4">テキスト<br>『科学技術日本語案内 新訂版』、山崎信寿 他 著、(慶応義塾大学出版会、2003)、4800 円+税、ISBN4-7664-0932-9</td></tr>
<tr><td colspan="4">参考書・参考資料等<br>日本語読解学習支援ｼｽﾃﾑ リーディング チュウ太 (Webページ)　http://language.tiu.ac.jp/</td></tr>
<tr><td colspan="4">学生に対する評価<br>　100 点満点(課題・レポート 10%、中間・期末試験 80%、出席・授業態度 10%)で 60 点以上を合格とする。</td></tr>
</table>

| 授業科目名：<br>情報処理 | 教員の免許状取得のための<br>必修科目 | 単位数：<br>２単位 | 担当教員名：栗本　猛<br>担当形態：単独 |
|---|---|---|---|
| 科　目 | 教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目 | | |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等 | ・数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作 | | |

授業のテーマ及び到達目標

この授業の具体的目標は，ITスキルおよびアカデミック・スキルとして次の実用的技術と情報倫理を身に付けることです。

（１）大学のIT設備，ホームページなどを活用できる。
（２）タッチタイピングによるキーボード入力ができる。
（３）電子メールの送受信ができる。
（４）ワープロソフトや文書清書システムなどを用いて，レポート文書を作成できる。
（５）インターネットを利用して適切な情報を検索することができる。
（６）原データを整理・分析して有用な情報を引き出すことができる。
（７）表計算ソフトや数値データ処理ソフトなどを用いて，データの集計やグラフの作成ができる。
（８）プレゼンテーションソフトを用いて，図解表現を含んだ発表資料の作成・実演ができる。
（９）ホームページを作成し，インターネット上に情報を発信できる。
（10）情報セキュリティやルール，マナー等の基礎知識を有し，情報倫理を遵守し，情報の管理・安全を確保できる。

授業の概要

大学生に必要とされる情報リテラシーとして，情報とネットワーク・システム環境の習熟・活用，インターネット通信に関するITスキルの修得と，学習・研究に活用できる文書処理・データ処理・表現技術などのアカデミック・スキルを身に付けるために授業を行います。

授業計画

第１回： 授業の進め方，電子メールの使い方(１)，情報倫理，学校教育とICT：授業のながれとアカデミック・スキル，電子メールの確認方法，演習環境と情報倫理ビデオのアクティブラーニング法，学校教育におけるICT
第２回： PC基本操作(１)，文書処理(１)，電子メールの使い方(２)：アプリケーションの基本操作，ワープロソフトによる定型文書の作成(基礎編)，メールの送信・受信，メールのマナー
第３回： PC基本操作(２)，文書処理(２)：ファイルとフォルダ・外部記憶装置の操作，ワープロソフトによる定型文書の作成(応用編)
第４回： Webブラウザの使い方：情報検索と図書館情報システムの利用法
第５回： 情報処理とデータサイエンス：原データから有用な情報へ，その社会での活用例
第６回： データ処理(１)：データ収集と表計算ソフトによるデータの整理
第７回： データ処理(２)：表計算ソフトによるデータ解析，関数の利用(基礎編)
第８回： データ処理(３)：表計算ソフトによるデータ解析，関数の利用(応用編)
第９回： データ処理(４)：用途と特性に応じた様々なグラフの作成
第10回： 文書処理(３)：ワープロソフトによる処理データを用いたレポートの作成
第11回： プレゼンテーション(１)：構成を考慮したプレゼンテーション資料の作成
第12回： プレゼンテーション(２)：図や表を含む効果的なプレゼンテーション資料の作成
第13回： WWWの基礎：Webページの構成(HTML)，テキストエディタの使い方，Webサーバへのアップロード
第14回： プレゼンテーション実践(１)：グループ別のプレゼンテーションとその評価
第15回： プレゼンテーション実践(２)：グループ代表者によるプレゼンテーションとその評価

テキスト

ICT活用で学ぶアカデミック・スキル　第４版，富山大学 情報処理部会 情報処理テキストワーキンググループ，富山大学出版会

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

受講時の課題提出と，情報倫理に関する小テストを総合して評価する。

| 授業科目名：<br>教育の思想と歴史 | 教員の免許状取得のための<br>必修科目 | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：田畑（布村）真美<br>児島博紀<br>担当形態：オムニバス |
|---|---|---|---|
| 科　目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等 | ・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 | | |

授業のテーマ及び到達目標

教育の理念や基本的概念について理解すること、家族と社会による教育、近代教育制度などの歴史に関する基礎的知識を習得すること、また、代表的な教育思想への理解を深めることによって、教育や学校について自ら批判的・創造的に考え直せるようになることが目標である。

授業の概要

本科目では、教育に関わる基本的概念や理念、子ども・教員・家庭・学校などの教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係、近代教育制度、現代社会の教育課題について、思想と歴史の観点から学習する。こうした学習を通して、現代社会における教育や学校の意義・可能性・課題について原理的・歴史的に考察する。

授業計画　（担当者）

第１回：イントロダクション――いかにして「教育の思想と歴史」を学ぶのか　（児島博紀）
第２回：西洋の教育の思想・歴史（１）――古典古代の教育　（児島博紀）
第３回：西洋の教育の思想・歴史（２）――近代以前の共同体における子育て　（児島博紀）
第４回：西洋の教育の思想・歴史（３）――近代市民革命と国民国家の形成　（児島博紀）
第５回：西洋の教育の思想・歴史（４）――子どもの発見と近代家族　（児島博紀）
第６回：西洋の教育の思想・歴史（５）――近代学校と義務教育　（児島博紀）
第７回：西洋の教育の思想・歴史（６）――子どもの世紀　（児島博紀）
第８回：西洋の教育の思想・歴史（７）――現代社会と教育　（児島博紀）
第９回：日本の教育の思想・歴史（１）――近世社会における人間形成と学びの文化（田畑（布村）真美）
第１０回：日本の教育の思想・歴史（２）――近代学校の出発　（田畑（布村）真美）
第１１回：日本の教育の思想・歴史（３）――明治公教育と教育勅語　（田畑（布村）真美）
第１２回：日本の教育の思想・歴史（４）――教育学の受容と新教育　（田畑（布村）真美）
第１３回：日本の教育の思想・歴史（５）――戦時下の学校と教育　（田畑（布村）真美）
第１４回：日本の教育の思想・歴史（６）――戦後の教育改革　（田畑（布村）真美）
第１５回：日本の教育の思想・歴史（７）――経済成長と教育　（田畑（布村）真美）
定期試験

テキスト

森川輝紀・小玉重夫編『教育史入門』放送大学教育振興会、2012 年。

| |
|---|
| 参考書・参考資料等<br>井藤元編『ワークで学ぶ教育学〔増補改訂版〕』ナカニシヤ出版、2020 年。<br>今井康雄編『教育思想史』有斐閣、2009 年。<br>岩下誠ほか『問いからはじめる教育史』有斐閣、2020 年。<br>木村元『学校の戦後史』岩波書店、2015 年。<br>木村元ほか『教育学をつかむ〔改訂版〕』有斐閣、2019 年。<br>小玉重夫『シティズンシップの教育思想』白澤社、2003 年。<br>辻本雅史『江戸の学びと思想家たち』岩波書店、2021年。<br>広田照幸『日本人のしつけは衰退したか　「教育する家族」のゆくえ』講談社、1999年。<br>真壁宏幹編『西洋教育思想史〔第2版〕』慶應義塾大学出版会、2020 年。<br>山住正己『日本教育小史』岩波書店、1987 年。<br>山本正身『日本教育史　教育の「今」を歴史から考える』慶應義塾大学出版会、2014 年。 |
| 学生に対する評価<br>定期試験80％（西洋と日本で各40％）<br>授業内容をふまえつつ、設定された課題に対する自らの見解を論理的に述べることができる。<br><br>コメントペーパー20％（西洋と日本で各10％）<br>授業内容を理解した上で、自らの意見を述べることができる。 |

| 授業科目名：<br>教職と教育 | 教員の免許状取得のための<br>必修科目 | 単位数：<br>２単位 | 担当教員名：<br>林　誠一，西島健史<br>担当形態：オムニバス |
|---|---|---|---|
| 科　目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等 | ・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） | | |

授業のテーマ及び到達目標

教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容、チーム学校運営等について理解し、展望と課題意識をもってその後の教職科目を学ぶための基盤を確立する。

授業の概要

学校教育や教職について、基礎的な事柄を広範な視野で学び、全体像をつかむとともに、リフレクション等を通して適性や進路選択に資する教職の在り方の理解を深めつつ、展望と課題意識をもってその後の教職科目が学べるようにする。

授業計画

第１回：オリエンテーション（担当：林　誠一）
第２回：教育の現状と課題（担当：西島健史）
第３回：子どもの生活と学校（担当：西島健史）
第４回：学習指導の意義・目的・方法、教育課程（担当：林　誠一）
第５回：学習指導論と学習指導要領の歴史的変遷（担当：林　誠一）
第６回：中央教育審議会答申と学習指導要領、学習指導の新しい方向性（担当：林　誠一）
第７回：生徒指導の目的と機能（担当：西島健史）
第８回：生徒指導の方法と実際（担当：西島健史）
第９回：進路指導の定義と歴史的変遷（担当：西島健史）
第10回：進路指導とキャリア教育（担当：西島健史）
第11回：教育相談の概要（担当：西島健史）
第12回：教育相談に生かせるカウンセリングの知識（担当：西島健史）
第13回：学級経営とチーム学校（担当：林　誠一）
第14回：教師に求められる資質能力と研修（担当：林　誠一）
第15回：教員の服務上・身分上の義務と身分保障（担当：林　誠一）

テキスト

藤本典裕 編著　『新版（改訂二版）教職入門　－教師への道－』　図書文化社　2019.2

| | |
|---|---|
| 参考書・参考資料等　　　　なし | |
| 学生に対する評価<br>　毎回の振り返りレポート（70%）、最終レポート（30%） | |

<table>
<tr><td>授業科目名：<br>学校の制度と経営</td><td>教員の免許状取得のための<br>必修科目</td><td>単位数：<br>２単位</td><td>担当教員名：笹田　茂樹<br>担当形態：単独</td></tr>
<tr><td colspan="2">科　目</td><td colspan="2">教育の基礎的理解に関する科目</td></tr>
<tr><td colspan="2">施行規則に定める<br>科目区分又は事項等</td><td colspan="2">・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項<br>（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業のテーマ及び到達目標<br>１　教育関係法規を踏まえた上で、教育制度や教育行政の原理や仕組みを理解し、教育制度に関する諸問題について関心を持ち、問題解決への展望について考察する。<br>２　学校と地域の協働についての意義や方法について理解し、開かれた学校づくりの成果や課題についての認識を深める。<br>３　学校管理下で起こる事故や災害について、具体的事例を踏まえながら、危機管理や事故への対処方法についての理解を深める。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の概要<br>　権利としての教育という観点から、教育制度や教育行政の在り方について考察する。<br>また、近年の教育改革の動向を検証しながら、学校と地域の協働という視点から、学校を取り巻く諸問題についての理解を深めるとともに、教育制度についての知識を身につけることで、教育現場で主体的・自律的に活動する際の一助とする。<br>さらに、災害発生時における教育行政や学校の対応についての具体的事例を学ぶことで、危機管理能力を高め、自ら主体的に対処できるような資質を身につける。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業計画<br>第１回：オリエンテーション　教育制度とは？<br>第２回：「公教育」制度の成立<br>第３回：戦後教育改革と教育行政<br>第４回：教育基本法と学校教育法<br>第５回：現代の学校制度(1)　幼稚園・認定こども園と、義務教育諸学校<br>第６回：現代の学校制度(2)　高等学校・中等教育学校と、高等教育機関<br>第７回：学校と地域の協働(1)　学校評議員と学校評価<br>第８回：学校と地域の協働(2)　学校支援地域本部と地域学校協働本部<br>第９回：学校と地域の協働(3)　学校運営協議会と「学校協議会」<br>第10回：近年の教育制度改革(1)　教育改革の動向<br>第11回：近年の教育制度改革(2)　公立学校選択制<br>第12回：近年の教育制度改革(3)　特色ある学校づくり<br>第13回：阪神淡路大震災時の教育行政と学校の対応<br>第14回：東日本大震災時の教育行政と学校の対応<br>第15回：まとめ　教育制度や学校安全に関する研究動向（学校事故についての事例研究を含む）</td></tr>
</table>

| |
|---|
| 試験　課題レポート |
| テキスト<br>特になし |
| 参考書・参考資料等<br>著書名: 教育の経営・制度、著者名:浜田博文ほか、出版社名:一藝社 |
| 学生に対する評価<br>授業態度（参加意欲・発表など。授業に積極的に参加した者は加点対象。逆の者は減点対象）、課題レポート、試験などで総合的に評価する。 |

| 授業科目名：<br>教育心理学 | 教員免許状取得のための<br>必修科目 | 単位数：<br>２単位 | 担当教員名：飯島　有哉<br>担当形態：単独 |
|---|---|---|---|
| 科　目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等 | ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 | | |

授業のテーマ及び到達目標

授業テーマ：

児童生徒の心身の発達および学習過程に関する心理学の諸理論を学び，教育活動への応用と工夫について考え，活かす。

到達目標：

（１）児童生徒の心身の発達および学習過程に関する基礎的な理論について理解・整理し，日常生活に根ざした説明ができる。

（２）児童生徒の心身の発達および学習過程に関する基礎的な理論を応用し，教育活動における工夫について考え，提案できる。

授業の概要

教育に関連する心理学の諸理論について紹介し，教科指導，生徒指導，教育相談等の教職における各分野への応用について考えていく。

授業計画

第１回：ガイダンス，教育心理学とは

第２回：発達の基礎

第３回：子どもの認知発達

第４回：子どもの社会性発達

第５回：アタッチメントの理解

第６回：やる気の理論

第７回：記憶の理論

第８回：教授法の工夫

第９回：学習理論①：レスポンデント条件づけ

第１０回：学習理論②：オペラント条件づけ

第１１回：学習理論の応用①：教科指導における応用

第１２回：学習理論の応用②：生徒指導における応用

第１３回：障害をもつ子どもの理解

第１４回：障害をもつ子どもの指導と支援

第１５回：まとめと振り返り

テキスト

藤田 哲也（編著）『絶対役立つ教育心理学：実践の理論，理論を実践』ミネルヴァ書房

参考書・参考資料等

村上 香奈・山崎 浩一（編著）『子どもを支援する教育の心理学』ミネルヴァ書房

| |
|---|
| ※自身の関心に応じて，テキストか参考書のどちらか一冊以上を購入することをお勧めします。 |
| 学生に対する評価<br>授業中に課す課題（40%），レポート（60%） |

<table>
<tr><td>授業科目名：<br>特別支援教育概論</td><td>教員の免許状取得のための<br>必修科目</td><td rowspan="2">単位数：<br>２単位</td><td>担当教員名：<br>宮　一志、志賀文哉、和田充紀</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>担当形態：オムニバス</td></tr>
<tr><td>科　目</td><td colspan="3">教育の基礎的理解に関する科目</td></tr>
<tr><td>施行規則に定める<br>科目区分又は事項等</td><td colspan="3">・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業のテーマ及び到達目標及<br>・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。<br>・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。<br>・障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の概要<br>　学習上、または生活上の困難のある子ども一人一人が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身につけていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。<br>教員免許状（幼・小・中・高）取得のための「教育の基礎的理解に関する科目」の必修科目です。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業計画<br>第1回：障害のある子どもたち（担当：宮　一志）<br>第2回：知的障害・発達障害児の理解（担当：宮　一志）<br>第3回：肢体不自由・重度重複障害児の理解（担当：宮　一志）<br>第4回：病弱児の理解（担当：宮　一志）<br>第5回：視覚障害・聴覚障害児の理解（担当：宮　一志）<br>第6回：特別支援教育の理念（担当：和田　充紀）<br>第7回：特別支援教育の制度（担当：和田　充紀）<br>第8回：知的障害・発達障害児の現状（担当：宮　一志）<br>第9回：知的障害・発達障害児の問題把握（担当：宮　一志）<br>第10回：知的障害・発達障害児への生活支援（担当：宮　一志）<br>第11回：障害児への教育的支援（担当：和田　充紀）<br>第12回：集団学習と個別の配慮（担当：和田　充紀）<br>第13回：個別の指導計画・教育支援計画（担当：和田　充紀）</td></tr>
</table>

| |
|---|
| 第14回：関係機関との連携（担当：和田　充紀）<br>第15回：子どもをとりまく環境の問題：外国人児童生徒や子どもの貧困に関する問題など（担当：志賀<br>　文哉） |
| テキスト<br>　特になし |
| 参考書・参考資料等<br>　各回の授業前に講義資料を配布する<br>　参考:文部科学省「特別支援教育について」<br>　　http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main.htm |
| 学生に対する評価<br>　各回ごとに確認試験を行い、成績評価を行う |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目名：<br>教育課程論 | 教員の免許状取得のための<br>必修科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：<br>黒羽　正見<br>担当形態：<br>単独 |

| | |
|---|---|
| 科　目 | 教育の基礎的理解に関する科目 |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等 | ・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。） |

授業のテーマ及び到達目標

「教育課程」の役割や改訂の変遷、意義及び編成の方法、カリキュラム・マネジメントについて理解するとともに、「教育課程」と教職の専門性の関連について実践レベルにおいて考察することができる。

授業の概要

本授業は、「教育課程」の歴史的変遷や理論、意義と編成の方法、カリキュラム・マネジメントについての基本的な考え方を学び、「教育課程」の具体的実践例について検討することを通して、教育現場における「教育課程」について、制度レベルだけではなく実践レベルにおいても考察できるようになることを目的とする。子どもの豊かな学びを実現するために、教師はどのように「教育課程」に向き合い、実践しているのかについて、日常的な教師の授業感覚を捉えながら、ともに理解を深めていく。

授業計画

第１回：「教育課程」の役割と機能

第２回：欧米における「教育課程」の歴史と理論

第３回：日本における学習指導要領の変遷と内容、社会的背景

第４回：教育課程編成の基本原理と授業研究

第５回：子どもの実態に即した教育課程編成の方法

第６回：次期学習指導要領の特徴とカリキュラム・マネジメント

第７回：ヒドゥン・カリキュラム

第８回：まとめ(「教育課程」と教職の専門性について)

最終レポート

テキスト

・「中学校学習指導要領」（最新版）

・「中学校学習指導要領解説　総則編」（最新版）

・「高等学校学習指導要領」（最新版）

・「高等学校学習指導要領解説　総則編」（最新版）

参考書・参考資料等

| |
|---|
| ・西岡加名恵編著「教育課程」協同出版，2017 年<br>・佐藤学「教師花伝書 － 専門家として成長するために」小学館，2009 年 |
| 学生に対する評価<br>・授業態度(グループディスカッションへの参加姿勢等)（10%）<br>・授業内ミニ・レポート(複数回)（50%）<br>・中間レポート（20%）<br>・最終レポート（20%）<br>以上を総合的に判断し、評価する。 |

<table>
<tr><td>授業科目名：<br>総合的な学習の時間教育論</td><td>教員の免許状取得のための必修科目</td><td>単位数：<br>２単位</td><td>担当教員名：<br>長谷川　春生<br><br>担当形態：<br>単独</td></tr>
<tr><td colspan="2">科　目</td><td colspan="2">道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目</td></tr>
<tr><td colspan="2">施行規則に定める<br>科目区分又は事項等</td><td colspan="2">・総合的な学習の時間の指導法</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業のテーマ及び到達目標<br>総合的な学習（探究）の時間において育成すべき資質・能力について、学習指導要領や授業実践例を基に理解することができる。<br>特に、各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現することの重要性を理解した上で、そのために必要となる指導計画の作成及び具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付けることできる。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の概要<br>授業の第1～3回目は、主に、総合的な学習（探究）の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する。<br>その後、第4～7回目は、総合的な学習（探究）の時間における具体的な指導の在り方やその手立てを探究的な学習の過程ごとに学ぶ。また、総合的な学習（探究）の時間においては、地域との連携・外部人材の活用も重要であるため、そのことについての具体的な指導の在り方やその手立てについても第8回目で学ぶ。<br>第9～12回は、指導計画の作成について、実際にその作成、発表、ディスカッションを通して学ぶ。このとき、各教科等との関連性を図ること、主体的・対話的で深い学びが実現するように計画を作成することの重要性を理解する。<br>第13回は、このような総合的な学習（探究）の時間における生徒の活動をどのように評価するかについて学ぶ。<br>最後の第14、15回は、総合的な学習（探究）の時間が、中学校、高等学校で実際にどのように行われているかについて、先進的な取組をしている中学校、高等学校で総合的な学習（探究）の時間を指導している教員から指導を受ける。このとき、実践上の留意点や評価の実際についても指導を受け、講義と実践が結びつくようにする。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業計画<br>第１回：総合的な学習（探究）の時間の意義と原理（総合的な学習（探究）の時間の目標）</td></tr>
</table>

| |
|---|
| 第２回：総合的な学習（探究）の時間の意義と原理（総合的な学習（探究）の時間の意義、各教科との関わり）<br>第３回：総合的な学習（探究）の時間の意義と原理（各学校で定める内容とその方法）<br>第４回：探究的な学習の過程とその実現のための手立て（課題の設定）<br>第５回：探究的な学習の過程とその実現のための手立て（情報の収集）<br>第６回：探究的な学習の過程とその実現のための手立て（整理・分析）<br>第７回：探究的な学習の過程とその実現のための手立て（まとめ・表現）<br>第８回：探究的な学習の過程とその実現のための手立て（地域との連携・外部人材の活用）<br>第９回：総合的な学習の時間における指導計画（作成の考え方）<br>第１０回：総合的な学習（探究）の時間における指導計画（作成１、大まかな単元配置を中心に）<br>第１１回：総合的な学習（探究）の時間における指導計画（作成２、単元間の関連性・整合性の確認を含めて）<br>第１２回：総合的な学習（探究）の時間における指導計画（発表とディスカッション）<br>第１３回：総合的な学習（探究）の時間における評価の考え方<br>第１４回：総合的な学習の時間における実践上の留意点と評価（中学校の例）<br>第１５回：総合的な探究の時間における実践上の留意点と評価（高等学校の例）<br>定期試験は実施しない。 |
| テキスト<br>　文部科学省、中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編（最新版）<br>　文部科学省、高等学校学習指導要領解説総合的な探究の時間編（最新版） |
| 参考書・参考資料等<br>　授業中に適宜資料を配布する。 |
| 学生に対する評価<br>　レポート試験（８０パーセント）、講義中に作成した指導計画等の内容（２０パーセント） |

<table>
<tr><td rowspan="2">授業科目名：<br>特別活動論</td><td rowspan="2">教員の免許状取得のための<br>必修科目</td><td rowspan="2">単位数：<br>１単位</td><td>担当教員名：<br>堀井啓幸</td></tr>
<tr><td>担当形態：<br>単独</td></tr>
<tr><td>科　目</td><td colspan="3">道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目</td></tr>
<tr><td>施行規則に定める<br>科目区分又は事項等</td><td colspan="3">・特別活動の指導法</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業のテーマ及び到達目標<br>学校教育における特別活動の意義や目標、内容を理解するとともに、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の3つの視点や「チームとしての学校」の視点から特別活動の指導の在り方を考察し、指導に必要な実践的知識を得ることができる。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の概要<br>本授業は、学校教育における特別活動の目的や位置づけ、意義を理解するとともに、具体的な内容と指導法について学ぶことを目的とする。それぞれの子どもの成長や子どもたちの人間関係形成に寄与する特別活動の在り方や特別活動に求められる教師の力量について、実践事例をもとに教師の視点から考察することを目指す。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業計画<br>第１回：学校教育全体における特別活動の意義<br>第２回：学習指導要領における特別活動の目標と指導の在り方<br>第３回：学習指導要領における特別活動の内容項目と各特質<br>第４回：特別活動の指導・評価・改善活動におけるケア的アプローチの重要性<br>第５回：特別活動の指導①(学級活動・ホームルーム活動)<br>第６回：特別活動の指導②(生徒会活動)<br>第７回：特別活動の指導③(学校行事)<br>第８回：まとめ(特別活動に求められる教師の力量)<br>最終レポート</td></tr>
<tr><td colspan="4">テキスト<br>・「中学校学習指導要領」（最新版）<br>・「中学校学習指導要領解説　特別活動編」（最新版）<br>・「高等学校学習指導要領」（最新版）<br>・「高等学校学習指導要領解説　特別活動編」（最新版）<br>・吉田武男・京免徹雄編著『特別活動』ミネルヴァ書房、2020年</td></tr>
<tr><td colspan="4">参考書・参考資料等</td></tr>
</table>

| |
|---|
| ・文部科学省「生徒指導提要」教育図書（最新版）<br>・高見茂監修・若井彌一・青木栄一・梅野正信・古賀一博・坂田仰編集『2023年度版必携教職六法』協同出版、2022年 |
| 学生に対する評価<br>・授業態度(グループディスカッションへの参加姿勢等) (10%)<br>・授業内ミニ・レポート(複数回) (50%)<br>・中間レポート（20%）<br>・最終レポート（20%）<br>以上を総合的に判断し、評価する。 |

| 授業科目名：<br>教育方法・情報通信技術活用論 | 教員の免許状取得のための<br>必修科目 | 単位数：<br>２単位 | 担当教員名：<br>黒田　卓<br>担当形態：<br>単独 |
|---|---|---|---|

| 科　目 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 |
|---|---|
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等 | ・教育の方法及び技術<br>・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 |

授業のテーマ及び到達目標

・これからの情報社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法について説明できる。

・教育の目的に適した情報通信技術を活用した、さまざまな指導技術や評価方法ついて説明できる。

・教育の情報化の進展に伴う教育方法の変化を理解し、効果的なメディアの活用、教材の作成ができる。

授業の概要

本授業では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けることを目的としている。大きく変わろうとしている学校と、そこで行われている授業について、教育の方法、指導技術や評価方法、授業を支援するメディアの役割について理解する。実習的な活動も取り入れ、教える立場として授業を考えることにより、これからの教師に求められる資質、能力について理解し、その準備を自ら行えるよう支援する。

授業計画

第１回：オリエンテーションー講義のすすめ方・授業ってなに、教育ってなに？教えるということ、学ぶということを取り巻く背景思想

第２回：メディアと学びの関係− データ、情報、知識とは何か

第３回：教育の情報化の動向− 学校はどう変わってきているのか・これからの教師・生徒に求められる情報活用能力、ICT活用を支援する体制

第４回：子どもたちを取り巻く学習環境の変化− 電子教科書・電子黒板を活用した授業実践

第５回：すぐれた授業とはなにか− 主体的・対話的で深い学びを作り出す授業づくり

第６回：授業をデザインする− 授業をつくる上で必要となる要素、戦後教育方法研究に学ぶ

第７回：授業技法− 授業を進める上で必要となるコミュニケーション技術

第８回：効果的な教材デザイン− デジタルコンテンツの可能性・【演習】教材製作

第９回：授業をどのように評価するか

| |
|---|
| 第１０回 : 学校はどのように変わっていくか– 総合的な学習の時間の本質<br>第１１回 : ICTを利用した教育方法改善　– 反転授業、遠隔教育、特別な支援を必要とする子供たちの学び等 –<br>第１２回 : 学校における教育活動と著作権<br>第１３回 : 教育DXをより進めるための生徒・教師に求められる情報モラル・セキュリティ<br>第１４回 : 教えるということを改めて考え直す : 学びのための学習環境・校務支援<br>第１５回 : 【総合実習】これからの教員に求められる能力とは<br>定期試験 |
| テキスト<br>　新しい教育の方法と技術、篠原 正典・宮寺 晃夫、ミネルヴァ書房、2012年05月 |
| 参考書・参考資料等<br>　教材設計マニュアル　鈴木克明著　北大路書房　2200円＋税<br>　視聴覚メディアと教育方法　井上智義編　北大路書房　2400円＋税<br>　教育の方法と技術　平田啓一・町田隆哉編　教育出版　2260円＋税<br>　中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領（最新版）<br>そのほか，必要に応じて指示する． |
| 学生に対する評価<br>中間課題・演習作品（３０％），定期試験（７０％）で評価する． |

| 授業科目名：<br>生徒・進路指導論 | 教員の免許状取得のための<br>必修科目 | 単位数：<br>２単位 | 担当教員名：<br>山田智之<br>担当形態：<br>単独 |
|---|---|---|---|
| 科　目 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | | |
| 施行規則に定める<br>科目区分 | ・生徒指導の理論及び方法<br>・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 | | |

授業のテーマ及び到達目標

・　生徒指導の意義と役割について基本的な知識を理解する。
・　児童生徒指導の実際について理解するとともに、指導方法に対する知識を習得し、実際の場面での活用方法について考える。
・　進路指導、キャリア教育の意義と役割について基本的な知識を習得する。
・　進路指導、キャリア教育の実際について学び、知識を習得し指導方法を学ぶ。
・　生徒指導、進路指導・キャリア教育の指導計画の作成ができるようにする。

授業の概要

学校教育は、すべての児童生徒の人格の健全な育成を図ることを目的に存在している。時代の変化の中で、表面化する問題への対処の仕方にも違いが出てくるが、生徒指導・進路指導には不易な部分がある。この不易な部分を学び、なおかつ現実を知ることが必要である。本講義では、学校教育現場で起こっている現実を見据え、児童生徒の個性の伸長や自己実現、自立を援助するための生徒指導、進路指導の在り方や具体的な方策について考える。

授業計画

第１回：【生徒指導・進路指導】生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義と課題
第２回：【進路指導】進路指導・キャリア教育の歴史と理論
第３回：【進路指導】進路指導・キャリア教育におけるガイダンスとカウンセリング機能
第４回：【進路指導】【AL】自己理解に関わる授業事例の検討　人生双六＜金の糸＞
第５回：【進路指導】【AL】職業観・勤労観などの育成に関わる授業事例の検討　職場体験等
第６回：【進路指導】【AL】職業観・勤労観などの育成に関わる授業事例の検討　金融教育
第７回：【進路指導】【AL】三者面談とキャリア教育
第８回：【進路指導】これからの時代の進路指導・キャリア教育
第９回：【生徒指導・進路指導】生徒指導・進路指導・キャリア教育の組織と体制
第１０回：【生徒指導】生徒指導と特別活動　学級活動・ホームルーム活動
第１１回：【生徒指導】生徒指導と特別活動　生徒会活動・学校行事
第１２回：【生徒指導】【AL】学級活動に関連する生徒指導上の課題と解決策　席決め
第１３回：【生徒指導】【AL】いじめ問題に関連する教育課題と解決策
第１４回：【生徒指導】学校現場におけるリスクマネジメントの実際
第１５回：【生徒指導・進路指導】まとめ

テキスト

特に指定しない。資料を随時配布する。

参考書・参考資料等：

新井邦二郎編　教職シリーズ７ 進路指導　培風館　2012

文部科学省　キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書　実業之日本社　2013

文部科学省　中学校キャリア教育の手引き　教育出版　2011

文部科学省　高等学校キャリア教育の手引き　教育出版　2012

文部科学省　高等学校学習指導要領（最新版）

文部科学省　中学校学習指導要領（最新版）

文部科学省　生徒指導提要（最新版）

山田智之著　教職員のための職場体験学習ハンドブック～先進的モデル「町田っ子の未来さがし」より　実業之日本社　2006

学生に対する評価

授業（発表・論議・演習など）への参加状況、リアクションペーパー、課題レポート等により総合的に評価する。

| | | |
|---|---|---|
| １ | 授業、発表、論議への参加状況<br>リアクションペーパー　（１５回×３％） | ４５％ |
| ２ | 課題レポート | １５％ |
| ３ | 最終課題レポート | ４０％ |

| 授業科目名：<br>教育相談 | 教員免許状取得のための<br>必修科目 | 単位数：<br>２単位 | 担当教員名：喜田　裕子<br>担当形態：単独 |
|---|---|---|---|
| 科　目 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | | |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等 | ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 | | |

授業のテーマ及び到達目標

教育相談とは、児童生徒が自己理解を深めたり人間関係を築いたりしながら適応的に生活するのを助け、人格的成長を支援する教育活動である。本授業では、児童生徒の心理を適切に理解し支援するために教師として必要な基礎的知識と技能を修得することを目標とする。

授業の概要

学校における教育相談の意義と、実践を支える理論を概説し、教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的取り組みや連携について理解を深める。そのうえで、カウンセリングの基礎的技法を体験的に学ぶ。

授業計画

第１回：オリエンテーション
第２回：学校における教育相談の意義と課題
第３回：不適応や問題行動の理解と対応
第４回：学校教育におけるカウンセリングマインド
第５回：教育相談と心の発達
第６回：　カウンセリングの基礎理論①来談者中心のカウンセリング
第７回：　カウンセリングの基礎理論②感情と認知
第８回：カウンセリングの基礎理論③短期療法
第９回：予防的・開発的カウンセリング
第１０回：チームとしての支援、学校内の専門家および地域や外部専門機関との連携
第１１回：教育相談の進め方の実際
第１２回：カウンセリングの基礎的技法①かかわりの基礎
第１３回：カウンセリングの基礎的技法②傾聴と質問
第１４回：カウンセリングの基礎的技法③受容と共感
第１５回：まとめ

テキスト

よくわかる教育相談．（2011）．春日井敏之・伊東美奈子編．ミネルヴァ書房．

参考書・参考資料等

生徒指導提要（文部科学省）（最新版）
改訂版いじめ対応ハンドブック（富山県教育委員会）https://www.pref.toyama.jp/3002/kurashi/kyouiku/kyouiku/kj00022969.html

学生に対する評価

授業中に指示した小レポート50%、期末試験50%により評価する。

| シラバス：<br>教職実践演習（中・高） | 単位数：２単位 | 担当教員名：<br>教職担当教員：増田（田中）美奈<br>教科担当教員：上山　輝 |
|---|---|---|

| 科　目 | 教育実践に関する科目 |
|---|---|

| 履修時期 | ４年次後期 | 履修履歴の把握（※１） | ○ | 学校現場の意見聴取（※２） | ○ |
|---|---|---|---|---|---|

受講者数　　　４０人（2クラスで実施）　グループワークは1グループ約２０人で実施

教員の連携・協力体制

現職・退職教員の協力を得るとともに，教職担当教員が児童理解や学級経営に関する講義，授業参与観察の指導を行い，教科担当教員が指導案の作成・検討，模擬授業に参画する。

授業のテーマ及び到達目標

学生は，この科目を通して以下のことができるようになる。

・教職に関する様々な課題についてグループで議論しつつ取り組む。
・教育実習等の振り返りを行い，自分自身の資質・能力を評価して，教師になるために適切な目標を設定する。
・特定の学年・教科のための指導案を書く。
・授業参与観察や現職・退職教員の講義をもとに，学校での教育に関して理解を深める。

とりわけ，教員として重要な次の４項目に関して自己評価を行い，これらの資質・能力を身につける。

・ 使命感や責任感，教育的愛情等
・ 社会性や対人関係能力
・ 生徒理解や学級経営等
・ 教科等の指導力

授業の概要

教職課程の総まとめに位置する重要な科目である。「履修カルテ」等を用いてこれまでの学修を振り返り，自己の到達点を確認するとともに，教職についての考えを深めるためのグループワークや模擬授業等を通して，教員として必要な資質・能力を確認し，それらの向上を図る。

| |
|---|
| 授業計画<br>第１回：オリエンテーション（教職実践演習の意義と目的、教壇に立つまでの見通し等）（担当：全教員）<br>第２回：これまでの学修の振り返り（講義・グループワーク）（担当：増田（田中）美奈）<br>第３回：教職の意義・教員の役割，各自治体の教育方針（講義・グループワーク）（担当：増田（田中）美奈）<br>第４回：教職に必要とされる社会性・対人関係能力等（グループワーク）（担当：増田（田中）美奈）<br>第５回：生徒理解（講義）（担当：増田（田中）美奈）<br>第６回：生徒理解の事例検討（グループワーク）（担当：増田（田中）美奈）<br>第７回：学級経営（講義）（担当：増田（田中）美奈）<br>第８回：学級経営の事例検討（グループワーク）（担当：増田（田中）美奈）<br>第９回：学校での授業参与観察（担当：増田（田中）美奈）<br>第10回：学校での授業参与観察に基づく検討（担当：増田（田中）美奈）<br>第11回：授業技術①：教科の指導力（ICT活用指導力を含む）（講義）（指導案作成の課題提出）（担当：上山　輝）<br>第12回：授業技術②：指導案の発表・検討（グループワーク）（担当：全教員）<br>第13回：授業技術③：模擬授業（ICTを活用した模擬授業を含む）（代表者）（担当：全教員）<br>第14回：現職・退職教員の経験からの学び（講義・グループワーク）（担当：増田（田中）美奈）<br>第15回：資質・能力の確認，今後の目標設定（担当：増田（田中）美奈）<br>定期試験は実施しない。 |
| テキスト<br>適宜，資料を配布する。<br>必要なものについては，その都度連絡する。 |
| 参考書・参考資料等<br>『中学校学習指導要領（最新版）』，『高等学校学習指導要領（最新版）』 |
| 学生に対する評価<br>各種レポート（７０%），グループワークの発表点（２５%），履修カルテ（5%）等に基づき，教員として最小限必要な資質能力や知識技能を修得できているかを総合的に確認する。 |

※１　履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「〇」と記載すること。

※２　授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「〇」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。